

ウェルカムまちづくり

小山市民討議会 2010

実施報告書



小山市民討議会

一人と企業を呼び込むまち

1. みんな健康でいきいきと幸せに暮らせるまちにするには
2. 歴史や自然環境を活かした魅力あるおやまにするには
3. 元気なまちになるために、おやまの産業を活かす方法は

社団法人 小山青年会議所・小山市



実施報告書目次

| | |
|-------------------------------------|----|
| はじめに | 2 |
| 小山市民討議会2010開催趣意書 | |
| 第1章市民討議会について | |
| 1-1. プラヌクスツイレとは | 4 |
| 1-2. 市民討議会とは | 4 |
| 新しい市民参加のかたち | |
| 市民討議会の流れ | |
| 第2章小山市民討議会について | |
| 2-1. 小山市民討議会2010「ウェルカムまちづくり」実施概要・経過 | 6 |
| 概要 | |
| 協定の締結 | |
| 運営組織 | |
| スケジュール | |
| 討議テーマ | |
| 2-2. 討議方法 | 9 |
| 2-3. 参加者について | 10 |
| 無作為抽出の方法 | |
| 参加者数 | |
| 参加者への謝礼 | |
| 参加者の反応 | |
| 2-4. 広報について | 11 |
| ホームページ | |
| プレス対応 | |
| 第3章討議結果と提言 | |
| 3-1. 第1回話し合い | 12 |
| 3-2. 第2回話し合い | 18 |
| 3-3. 第3回話し合い | 24 |
| 第4章小山市民討議会の検証 | |
| 4-1. 小山市民討議会実施後の取り組み | 32 |
| 中間報告会 | |
| 報告書の作成、提出 | |
| 事後のフォロー | |
| 4-2. アンケート調査の結果について | |
| 参加者アンケート集計結果 | 33 |
| 開催前アンケート集計結果 | 40 |
| おわりに | 45 |

はじめに

昨年の政権交代を受けて激動する日本の社会情勢で、未だ国民は戸惑いが隠せない状況下であることを感じながら今年で3回目となる市民討議会を開催しました。

ドイツ発祥である市民討議会は様々な変遷をたどって、日本の形にアレンジされ今では全国各地で開催されるようになりました。この市民討議会は無作為抽出により参加者を募り普段行政に対して意見を述べるのが少ない市民の方々に暮らしに関わるテーマについて討議していただくことで全体の意見として集約し、行政に対して提言することと参加者の社会参画意識の向上を目的としています

さて、昨年一昨年と開催された小山市民討議会は多くの市民の方々から好評をいただいておりますが、今年も多く市民の方から参加承諾を得て、討議会当日も活発な意見が飛び交い充実した1日を過ごすことが出来ました。あらためて市民の方々のまちづくりに対する意識の高さについて感動し、また同時に市民討議会の必要性、重要性についても強く考えさせられました。

小山市民討議会2010「ウェルカムまちづくり」実行委員長の思いとして、この市民討議会を開催することで行政に対して提言することは勿論ですが、行政関係者、(社)小山青年会議所、そして参加して下さった市民の方々と様々なテーマについて意見を共有させていただくことで地域間の人と人とのつながりも深まっていくのではないかと考えます。今後、市民討議会を数多くの市民の方々に知っていただき「市民参画のまちづくり」の思いや意識の向上を図っていきたいと思います。

最後に小山市民討議会2010「ウェルカムまちづくり」を開催するにあたり大久保市長、行政関係者様、実行委員会の皆様、(社)小山青年会議所の皆様、討議に参加していただきました市民の皆様に衷心より、感謝申し上げます。

小山市民討議会2010実行委員会
実行委員長 大河原 貴



小山市民討議会 2010 開催趣意書

現在のわが国は、少子高齢化社会の進展、様々な格差の顕在化、地球規模での温暖化対策など、社会情勢は混迷を深めており、国家財政の健全化に主眼を置く三位一体の改革とあいまって、地方自治体は大きな転換期を迎えております。

こうした時代にあって、最も大切なことは、地方自治の担い手である地域住民の声に耳を傾け、的確に施策に反映させていくことによって、協働のまちづくりを進めていくことでもあります。

(社) 小山青年会議所は明るく豊かな社会の実現の為、市民が主役となる市民協働のまちづくりを積極的に進めているほか、様々な市民活動に参画してきております。

また小山市は、これまでも「市長への手紙」、「市政モニター」、「パブリックコメント」などの広報活動のほか、「小山市総合計画策定市民会議」の設置などを通して、市民の声を市政に反映させてまいりました。

このような機会の創出は、小山市民の社会参画意識を高めることに大きく貢献してまいりましたが、一方では、このような意識が十分に浸透しているとは言い切れません。

このたび、(社) 小山青年会議所と小山市は、より多くの市民の方が、社会参画意識の高い市民へと意識改革されることが期待され、市民参加と協働を積極的に推進してゆく一歩となりうる、新たな市民参加手法の検証を行うことを目的に、9月に「小山市民討議会 2010」を協働で開催いたします。

「小山市民討議会 2010」はドイツの市民参加の手法を参考に実施いたしますが、その特徴は次の5点です。

20歳以上の市民を対象とした無作為抽出という方法により、これまでの社会参画意識の高い市民以外の方にも参加を促すきっかけとなります。
討議会への参加者には日当を支給します。これは金銭を支給することにより参加者に「責任ある仕事」として取り組んでいただく為です。
討議テーマについては専門家から情報提供を受けることができるため、専門知識を有しない方でも安心して参加できます。
プログラムの進行に従い各自の意見を出し合うことで、市民の知恵や良識を行政に反映することが出来ます。
ディスカッションの手法や内容及び成果について、実行委員会が検証・評価を行い、報告書としてまとめ、公開します。

テーマごとにディスカッションを行い、今回は賛否をとって結論付けすることはしませんが、市民の皆様が抱える課題や関心を明確化し、提案については市の施策などに反映させ、小山市をより良いまちにすることを目指します。

(社) 小山青年会議所と小山市が協働で開催することにより、「市民参加と協働のまちづくり」の実践がまたひとつ始まろうとしています。市民の皆さんのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2010年1月1日

小山市民討議会 2010 実行委員会

第1章 市民討議会について

1-1 プラヌクスツイレとは

プラヌクスツイレ (Planungszelle : 計画細胞) は、ペーター・C・ディーネル博士により1970年代に考案された市民参加の手法です。最初に行われたプラヌクスツイレは、1972年にドイツ・シュヴェルムにおいて実験的に実施され、それ以降50ヶ所以上で、200回以上開催されています。本格的に行政が導入を開始したのは2000年ごろからですので、ドイツにおいて本格的に定着するのに30年以上かかったこととなります。脚光を浴びるようになったのはここ10年くらいです。

ドイツでは、1990年のドイツ統一後、地方公共団体において住民投票制度が導入されていったことに伴い、直接民主主義に対する認識が高まりました。このような風潮の中で、市民参加の手法の一つとして、プラヌクスツイレが注目され、現在ドイツ以外にもオーストラリア、アメリカ、イギリス、スペイン等で実施されています。

ディーネル博士はプラヌクスツイレの定義を「無作為抽出で選ばれ、限られた期間、有償で日々の労働から解放され、進行役のアシストを受けつつ、事前に与えられた解決可能な計画に関する課題に取り組む市民グループである」としています。

実際に行われた内容を踏まえ、簡単にまとめると以下の通りになります。

解決が必要な、真剣な課題に対して実施する。

参加者は住民台帳から無作為で実施する。

有償で一定期間の参加(4日間が標準)

中立的な独立機関が実施機関となり、プログラムを決定する。

一つのプラヌクスツイレは原則25名で構成し、複数開催する。2名の進行役がつく。

専門家、利害関係者から情報提供を受ける。

毎回メンバーチェンジしながら、約5人の小グループで、参加者のみ討議を繰り返す。

「市民答申」という形で報告書を作成し、参加した市民が正式な形で委託者に渡す。

「まちづくりと新しい市民参加」篠藤明憲著(イマジン出版)より抜粋

1-2 市民討議会とは

新しい市民参加のかたち

市民討議会はプラヌクスツイレを参考に新しい市民参加の手法として考案されたもので、行政に対して意見を述べる機会が少ない一般の市民の方の知恵や経験、アイデア、感覚が行政の施策に反映される新しい民主主義のかたちであり、自立した市民のあり方につながるとともに、社会や国のあり方を変える一つのきっかけとなる仕組みです。

また、行政に対して積極的な参画意識をもちづらい市民が、地域や社会の問題を話し合い、その声が行政の施策に反映されるだけでなく、自分たちは何をすべきかを自ら考えることで、行動の意識付けになるものと考えられています。

市民討議会の流れ

今、行われている市民討議会は、次のような手順で行われています。

1、『無作為抽出』

住民基本台帳などの住民データから市民を無作為に抽出し、市民討議会の案内状（参加依頼書）を送付する。案内状の内容を読んで、参加しようと決めた人は承諾の返事を出す。

2、『事前情報』

開催日までには出欠の再確認がある程度で、必要に応じてテーマに沿った資料が送られてくる時もある。また、途中で参加希望者の興味が薄れないよう、情報提供の内容が決まったときなどに、その旨を知らせることもある。

3、『テーマ』

事前に知らされるのは大きなテーマだけで、細かい設問は討論の前に知らされる。

テーマの日数は知らせることもある。

4、『当日・情報提供』

テーマに興味はあっても、知識がないために参加に躊躇する人もいる。そこで、討議に入る前に行政担当者などの専門家が情報提供者として、テーマに関する基礎知識や現在の取り組みなどを参加者にレクチャーする。情報提供者は討議の方向性に影響を与えないように公平な情報を与えることが求められる。

5、『グループ』

討議時間は1テーマについて情報提供、討議、意見発表、投票の1サイクルで90分（情報提供20分、討議60分、まとめ10分）が標準。参加者は5人前後が1つのグループになり、グループごとに討議する。

5人程度の少人数で少人数で討議するのは、誰もが発言でき、しかも十分に議論し合える事からである。グループのメンバーはテーマごとに入れ替わり、同じメンバーの組み合わせにならないようにする。主催者（実行委員）が各テーブルに進行役として配置されることがあるが、進行係はグループの役割分担を決めるときに声掛けする程度で、議論の方向性に予断を与えない。本当に議論に行き詰ったときはアドバイスをするが、討論そのものには参加しない。

6、『意見集約・発表』

討論をまとめる意味で、一人一人の意見をメモにして、グループごとに大きな紙に貼り付ける。それぞれの意見についてグループごとに討議（まとめ）し、最終的に3つほどの意見に集約する。

7、『投票』

各グループの意見に対して、参加者全員が自分の賛同する意見に対して投票（シールを貼る。強く賛同する意見には複数枚貼ることができる。）する。これは、どの意見が一番いいかを決めるのではなく、市民の考え方の傾向、意識を知ることが目的で、結論を出すわけではない。報告書には意見ごとの票数が明記される。

8、『報告書の作成』

討議の結果（集約された意見や投票結果）は、報告書にまとめられ自治体首長、市議会議員、行政担当者、関係団体等に配布されるとともに、市民に公開される。

話し合いは説得ではなく合意です。

様々な年代の人々から、いろいろな意見を聞きながら、お互いを尊重し合うことで「自分たちの生活しているまちの為に」という気持ちでまとめ、共通項や合意像が浮かんでくると思います。その過程で色々なことを学ぶことができます。

第2章 小山市民討議会について

2 - 1 小山市民討議会2010「ウェルカムまちづくり」実施概要・経過

概要

一昨年（2008年）の春、（社）小山青年会議所から小山市長へ、無作為抽出による新しい形の市民会議である「市民討議会」を提案し、小山市民討議会の実施に関する協定書を締結しました。（社）小山青年会議所と小山市による実行委員会を組織し、開催に向けての準備を進め、2008年11月に第1回の小山市民討議会を協働開催しました。

協働のまちづくりをさらに進めるため、一昨年の討議会で多く出された意見を更に掘り下げる内容のテーマ設定を行い、昨年度は9月26日に第2回目の今年度は9月4日に第3回目の小山市民討議会「ウェルカムまちづくり」を開催しました。

協定の締結

（社）小山青年会議所と小山市は、小山市民討議会を円滑に実施するため、協働に関する原則や、各々の役割と責務等を定めた「小山市民討議会の実施に関する協定書」及び「費用負担に関する確認書」を2008年9月に締結しました。小山市民討議会2010「ウェルカムまちづくり」の開催は、その協定書に基づいています。

1. 協定の目的

小山市民討議会の実施及びその手法の効果の検証・評価に関し、（社）小山青年会議所と小山市との間の関係や役割分担、相互協力の内容などを定めることを目的としています。

2. 協働に関する原則

協働の精神に基づいて、（社）小山青年会議所と小山市が互いに遵守する原則を次のとおり定めました。

- （1） お互いが対等なパートナーの関係を保つよう心がけます。
- （2） お互いの立場を理解・尊重し、自由に意見を交換できる関係をつくります。
- （3） お互いの活動を理解し、その主体性・自主性を尊重します。
- （4） 個人情報の保護に配慮しながら、協働の過程や結果などの情報を公開し、市民の理解を得るよう努めます。
- （5） 多様な市民の意見を集め、中立性・公平性を担保します。

3.（社）小山青年会議所の役割と役務

- （1） 実行委員会への参加：実行委員会に委員としてメンバーを参加させます。
- （2） 広報活動：小山市民討議会を広く周知するため、広報活動を行います。
- （3） 個人情報の保護：小山市民討議会を実施する上で知り得た情報のうち、プライバシーに関するものなどについては、小山市個人情報保護条例に準じて保護を行います。

(4) 経費の負担：小山市民討議会に係る経費の一部を負担します。

4 . 小山市の役割と責務

(1) 実行委員会への参加：実行委員会に委員として職員を参加させます。

(2) 広報活動：小山市民討議会を広く周知させるため、広報活動を行います。

(3) 参加市民リストの抽出：住民基本台帳から参加市民の無作為抽出の作業をします。

(4) 個人情報の保護：小山市民討議会を実施する上で知り得た情報のうち、プライバシーに関するものなどについては、小山市個人情報保護条例に準じて保護を行います。

(5) 経費の負担：小山市民討議会に係る経費の一部を負担します。

(6) 報告書の検討：報告書に記載された内容を真摯に検討し、市政に活かすよう努めます。

5 . 費用負担の明細

| | 項目 | 摘要 | 負担 |
|-------|------------|------------------|----------------|
| 会場費 | 会場 | | 小山市 |
| | 討議会備品 | 看板・討議ボード等 | (社)小山青年会議所 |
| 講師関係費 | 講師謝礼金 | 情報提供者数名 | 小山市・(社)小山青年会議所 |
| | 参加者謝礼 | 討議参加市民 | (社)小山青年会議所 |
| | 食事代 | 参加者飲食代 | (社)小山青年会議所 |
| 資料作成費 | 実施事務局会議準備 | (社)小山青年会議所印刷機使用料 | (社)小山青年会議所 |
| | 報告書作成 | 報告書の作成、印刷 | (社)小山青年会議所 |
| 広報費 | ポスター、チラシ作成 | ポスター・チラシのデザイン、印刷 | 小山市 |
| 通信費 | 郵送代 | 案内状送付、参加承諾書返信等 | 小山市 |
| 記録費 | 記録用消耗品 | DVD - RW 等購入 | (社)小山青年会議所 |
| その他 | 雑費 | | (社)小山青年会議所 |
| | 予備費 | | (社)小山青年会議所 |

運営組織

「小山市民討議会 2010 実行委員会運営規定」に基づき、(社)小山青年会議所の会員 9 名、外部協力者 2 名、小山市役所の職員 8 名により、実行委員会を組織し、実行委員長には(社)小山青年会議所の会員が、副委員長には小山市役所の職員が就任しました。また、事務局として(社)小山青年会議所まちづくり委員会が参加し、サブオブザーバーとして数名の出席がありました。

実行委員会が様々な立場の委員で構成されたことにより、幅広い意見が出し合え、また、対等な立場で決定・承認が行われました。

スケジュール

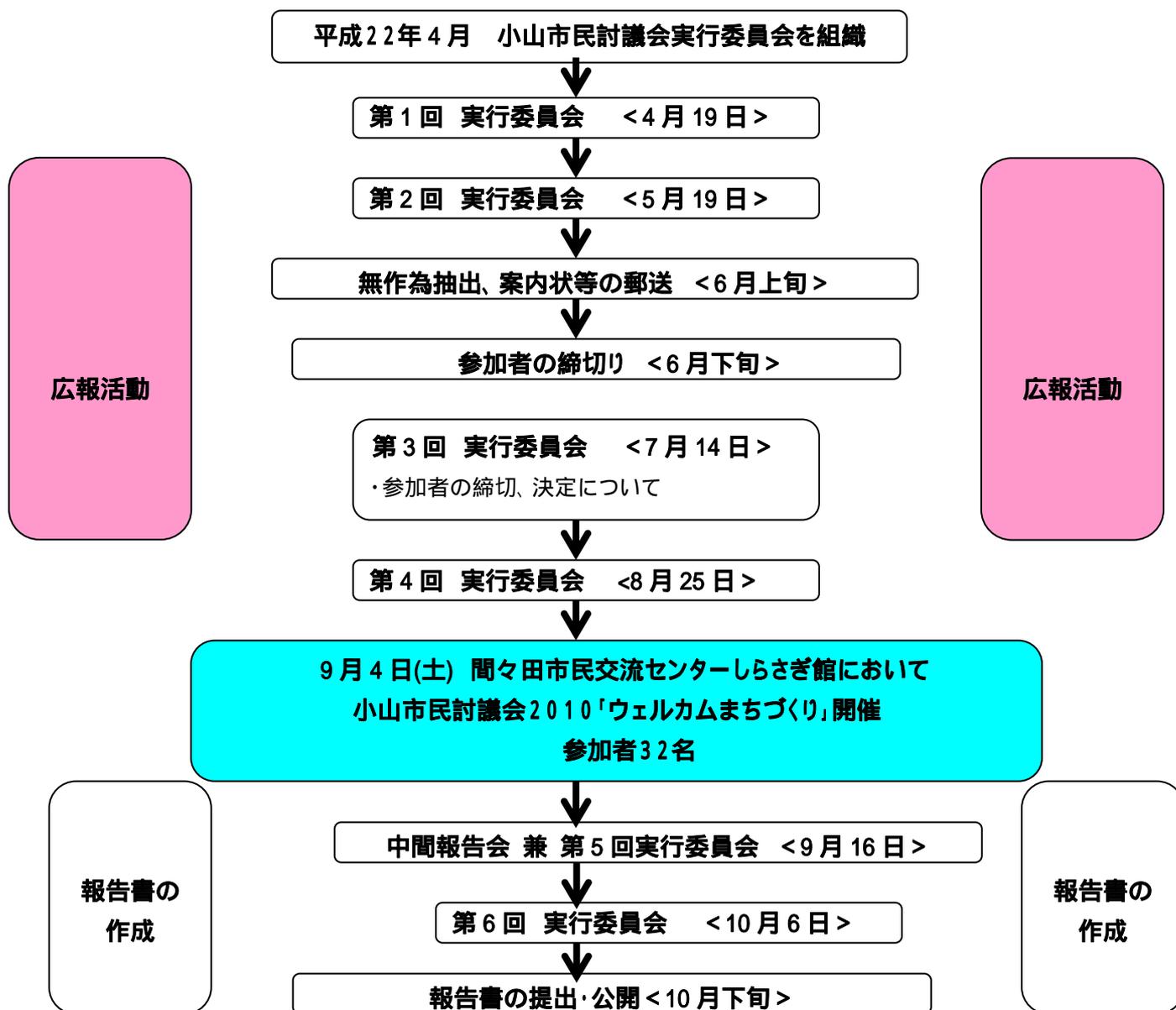
今年は昨年よりも約1ヶ月はやく9月上旬に市民討議会が開催されるため、それを踏まえ、6ヶ月前から事前準備を開始しました。実行委員会の組織までに約1ヶ月、広報に約2ヶ月、案内状の送付から参加者の決定までに約1ヶ月の時間を要しました。参加者への事前説明会は行わず、討議の流れ等を示したマニュアルを送付することで対応しました。

討議会開催後、約半年をかけて実施報告書の素案を作成し、その素案をもとに討議会参加者への中間報告会を行いました。中間報告会で参加者の皆様からご指摘をいただいた箇所を訂正の上で報告書の印刷を行い、10月29日に実行委員長から市長へ提出しました。

(社)小山青年会議所

小山市市民討議会の実施に関する協定書

小山市



討議テーマ

1. 大テーマ人と企業を呼び込むまち
2. 小テーマ討議 1: みんな健康でいきいきと幸せに暮らせるまちにするには
 討議 2: 歴史や自然環境を活かした魅力あるおやまにするには
 討議 3: 元気なまちになるために、小山の産業を活かす方法は

3. テーマの選定理由

以下の3点に留意しながら詳細な討議テーマの選定を行いました。

昨年、一昨年に触れていないテーマであること

昨年の市民討議会で多く出された意見を更に掘り下げる内容とすること

参加者の活発な意見交換が行われるよう、市民にとって身近で関心の高いテーマであること

2-2 討議方法

討議時間は1つの小テーマについて情報提供(15分)、討議(30分)、発表(30分)、投票(10分)の1サイクル85分で行い、参加者5人程度が1つのグループになり討議します。5人程度の少人数で討議するのは、誰もが発言でき、しかも十分に議論しあえる数だからです。

グループのメンバーはテーマごとにくじ引きにより入れ替わり、同じメンバーの組み合わせにならないように配慮しました。

1. 全員で情報を聞きます

専門家や実践者から、討議をスムーズに行うための多角的な意見や現状のデータ等の情報を提供しますので、全員で聞きます。

2. 小グループ(1グループ5人程度)に分かれて討議します

(1) 自己紹介

- (2) 役割の決定: 司会(リーダー的な役割を担います。付箋に書かれた意見をメンバーの同意をもとに分類し、グループの意見としてまとめる係)・筆記係(グループ内での書記となり、模造紙への記入を行う係)・発表者(グループ内で討議した内容を3分以内で発表する係)を決めます。

(3) 自由な意見交換をします。それぞれの意見を下記のような形でまとめます。

| | | | |
|--|----------------|--|-----|
| Aグループ | 山田 加藤 鈴木 佐藤 土屋 | | |
| 討議テーマ | について | | |
| [討議スペース] | | | |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px;"></div> </div> | | | |
| ま | | | ま |
| まとめ2 | | | 投票欄 |
| まとめ3 | | | 投票欄 |
| 残したい意見 | | | |

それぞれが自分の考える意見をどんどん付箋に書いて貼ります

付箋をまとめながら討議します

話し合いをしながら意見をまとめていきます

残したい意見がありましたら書いてください

3. 発表・投票

(1) 各グループで順番に発表します

- (2) 1つの討議に対し、一人5ポイントのシールを用い、同意する意見に投票をします。その際、自分のグループ以外の意見に投票してもかまいません。

2 - 3 参加者について

無作為抽出の方法

昨年の討議会においては、参加者数を 40 名とし、住民基本台帳から無作為に抽出した 20 歳以上の市民 2,000 人への参加案内状を送付したところ、予想を超える 131 名の方からの参加承諾をいただきました。そのため参加予定者数を 60 名に拡大しての開催となりました。

昨年度の結果から市民の討議会への関心の高さを伺い知り、本年度は当初から参加者数を 50 名とし、20 歳以上の市民 2,000 人を無作為に抽出し、参加案内状を送付しました。

参加者数

第 3 回目の開催でしたが、統計を取れるほどの数量データがあるわけではないため、何人の市民の方が参加承諾をしてくれるか、全く検討がつきませんでした。案内通知の発送数を含め、この点が課題であると考えます。

結果としては第 2 回目よりは少なかったが 96 名の参加承諾があったため、年代ごとの承諾者の割合を勘定し、各年代の選出者数を決定の上、実行委員による抽選を行い、討議の進行に支障のない最大限の人数であるとする 60 名を選出しました。なお、当日の参加者数は 34 名でした。

また、参加依頼書の送付を受けた市民のうち、討議会に参加できないものの、500 名の方からアンケートの回答をしていただきました。アンケートによると「討議会に参加したいが条件が整わない」という意見が 42%、「討議会を続けるべきだと思う」という意見が 59% ありました。このことから、市民の討議会に対する関心が高く、テーマや日程の工夫をすることで、さらに参加者が増加することが期待できます、

参加者への謝礼

参加者アンケートから参加者への謝礼の有無と額について見てみると、「ちょうどいい額だと思う」が 47% あり、全体としては肯定的な意見が多く聞かれました。その一方で、「謝礼は必要ない」という意見が 20% あったほか、「今回とは違う形（図書券）が良い。」「4,000 円または 5,000 円が適切な額」であるという意見もありました。

小山市民討議会においては、参加者の方に責任ある仕事として取り組んでいただくために、謝礼（日当と食事、飲料）を支給していますが、日当の形や額について、今後、検討が必要だと思われます。

参加者の反応

参加者アンケートの結果から見ると、市民討議会の参加依頼書を受け取ったときに感じた意見として「おもしろそうだった」が 62% 「不安になった」が 6%、「興味が

わかなかった」が 3%あり、進んで参加しようと思った人が半数以上であったことが分かります。

また、討議をしていく中で、参加前まで持っていた考えが「大きく変わった」やどちらかというと変わった」という意見が 65%を占めているほか、小山市の市民参加の試みに「今後も参加したい」や「都合がつけば参加したい」という意見が 97%もあり、このことから討議会への関心の高さが伺えます。

また、自分たちのまちは自分たちでつくるという、まちづくりへの参加意識が高まったこともうかがえます。

2 - 4 広報について

ホームページ

(社)小山青年会議所ホームページにおいて、討議会開催のお知らせや、討議会開催時の様子、報告書等を掲載しています。

プレス対応

8月29日に市役所で行われた定例記者会見において、討議会の開催についてお知らせしたほか、テレビ放送株式会社に御協力をいただき、PR番組を放送させていただきました。

広報小山6月1日号において討議会開催のお知らせをし、12月1日号では誌面2ページをいただき、討議結果の報告記事を掲載します。

また昨年に引き続き今回の討議会でも傍聴席を設け、プレス関係者のみならず、抽選により討議に参加できなかった参加承諾者(64名)や(社)小山青年会議所メンバー、小山市職員も傍聴を可能としました。

事前アンケートでの傍聴に対する意見(「討議は公開で行ったほうが良い」70%)を受け、今後は一般の市民や討議会に関心のある自治体、各地青年会議所の方等が見学できるように配慮するとともに、傍聴に際してのルール等を検討します。

第3章 討議結果と提言

3-1 第1回目話し合い

午 前

【第1回目話し合いテーマ】

『みんなで健康で、いきいきと幸せに暮らせるまちにするには』

《説明》

少子高齢化が進む現代、子どもを産み育てやすく、そして誰もが健康で生きがいを持って生活を送ることが出来るまちの推進は、早急に取り組むべき重要な課題になっています。皆さんが考える、みんなが健康で、いきいきと幸せに暮らせるまちとはどんなまちでしょうか？

ご意見やアイデアなどをお聞かせください。

《情報提供》

小山保健福祉部高齢生きがい課 課長 中島 恵子 氏

小山市の高齢化率（65歳以上）は、18.6%（平成22年4月1日現在）であり、これは10年前と比較して、4.88%増となっています。

高齢生きがい課では、福祉・介護サービスのさらなる充実を図るとともに、健康でいきいきと暮らせるよう、介護予防事業や生きがい作り、仲間作りの支援などを推進しております。

高齢生きがい課の事業内容

生きがい推進係

高齢者の生活支援と生きがいづくり支援を担当

- ・ 配食サービス
- ・ 軽度生活援助事業
- ・ 緊急通報装置貸与事業
- ・ 老人クラブ育成事業
- ・ 生きがい講座

高齢支援係、介護認定審査係

介護保険に関することを担当

小山市の要介護認定者数... 4,470人(平成22年3月末)

うち、第1号要介護者数... 4,271人

10年前と比較して1.9倍。保険給付も2.3倍の65億3,417万円

平成22年度の大きな3つの事業

介護施設の整備

介護ボランティア支援事業

高齢者見守り訪問事業

小山市保健福祉部健康増進課 課長 飯村 智子 氏

健康増進課では、高齢生きがい課の施策と連携した介護予防の実施、安心して子どもが生まれて育てる環境づくり等が重要課題となっています。

小山市では、「健康都市おやま」(平成4年3月)や、同年12月に「市民健康の日(毎年5月27日)」を制定。さらに平成15年3月には、市民の代表と協働で、健康増進計画である、「健康都市おやまプラン21」を策定しております。

また、平成20年度を「メタボ元年」とし、市を挙げてのメタボリックシンドローム対策に取り組んでおります。

健康増進課の事業

健やかに生まれて育てるための各種事業

生涯健康で元気に暮らせる環境整備

健康のための地域活動の強化

救急医療体制の充実

健康づくり団体との協働事業の推進

今年度の重点事業

子宮頸がんワクチン接種事業

ヒブワクチン接種事業

女性特有のがん検診推進事業・特定保健指導の強化

小児二次救急医療支援事業

介護予防拠点施設整備事業(いきいきふれあいセンターの設置)

いきいきふれあい事業

シニア元気あっぷ事業

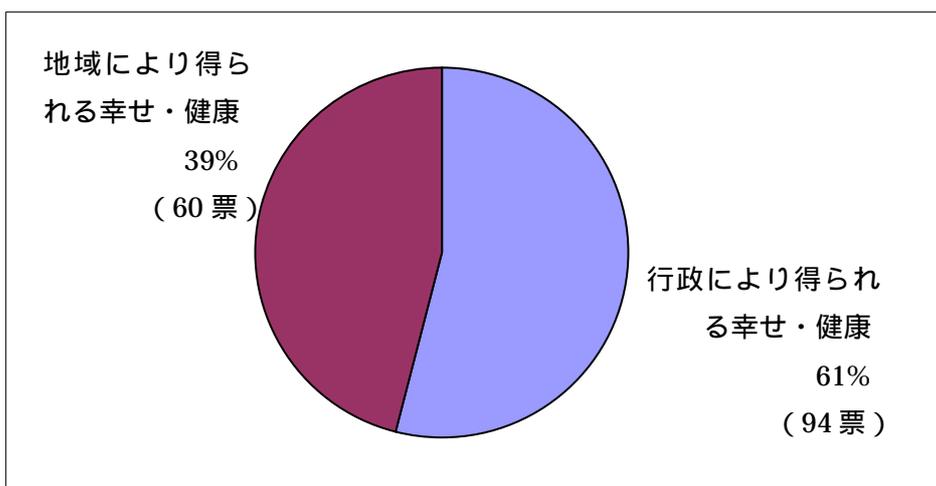
討議結果のまとめ

第1回目は「みんな健康で、いきいきと幸せに暮らせるまちにするには」をテーマに話し合いが行われました。討議の結果、市民の考えるいきいきと幸せに暮らせるまちには、「行政により得られる幸せ・健康」「地域により得られる幸せ・健康」という2つの要素が必要であることが分かりました。

全体的に見ると、医療機関の充実、スポーツジムなどの施設の充実など、行政によって得られる幸せ・健康が全体の半数以上を占めていますが、一方で地域の人同士のつながりにより得られるものが全体の約4割を占めています。

個別の得票数を見ると医療機関の充実や地域間の交流といった分野に対し、市民の関心が非常に高いことがうかがえます。

幸せ・健康に暮らせるまちは、医療・運動施設・食を市民と行政が相互に協力しながら構築していくものであるということが分かります。



残したい意見

- ・ 運動する場が少ない
- ・ 商店街が整備されていない
- ・ 健康促進住宅の促進
- ・ 喫煙スペースの更なる充実が必要
- ・ 生きがいのための趣味をもつ
- ・ グループホーム・有料老人ホーム
- ・ 中高一貫校が欲しい
- ・ 未利用地の管理（将来の子供のため）
- ・ 外国人との交流の場づくり、育児支援の確保

分析結果

| 提案・意見 | 投票 | 計 | 投票率 |
|---|-----|----|-----|
| [第1テーマ] みんな健康でいきいきと幸せに暮らせるまちにするには | | | |
| 行政による健康でいきいきと幸せに暮らせるまち | | | |
| 産婦人科の病院を増やして、子供を安心して産める様にしてほしい | 19 | 94 | 61% |
| ウォーキングサイクリング用の道を整備してほしい(外灯を増やしてほしい) | 13 | | |
| みんなが気軽に参加できるスポーツの機会をもっと多く設ける | 11 | | |
| 集団健診の周知徹底及びあとのフォロー | 9 | | |
| 健康づくりの施設と場の整備 | 9 | | |
| 年齢関係なく働ける場所があるとよい。 | 8 | | |
| バスの本数を増やしてほしい(車社会のため) | 6 | | |
| 検診の助成拡大 | 6 | | |
| 小児科が少ない | 6 | | |
| 健康に良い食品の調理法(ハトムギ、カンピョウ) | 4 | | |
| 予防のための食生活の指導に力を入れる | 3 | | |
| 民間による健康でいきいきと幸せに暮らせるまち | | | |
| 自然環境(特に思川)を活かし、交流の場を増やす | 16 | 60 | 39% |
| 近所つきあいをもつ。あいさつが気軽に言える様な気持ちがあると隣、近所の心とけ合う人間性がほしい | 9 | | |
| 自治会の活性化(施設の活用等、コミュニティ活動) | 9 | | |
| 地域住民が年齢にかかわらず交流できる場づくり | 9 | | |
| 挨拶(コミュニケーション) | 8 | | |
| 年齢に関係なく集える場所の提供 | 7 | | |
| 地域活性(企業の遊休設備の活用) | 2 | | |
| 合計 | 154 | | |

| 5 みんな健康でいきいきと幸せに暮らせるまちにするには | | | | | | | |
|-----------------------------|---|-------------------------|-------------------|--------------------------|-------------------|------------------|-----------|
| 討議メンバー | 松本 大川 千葉 谷口 宮澤 | | | | | | |
| 討議作業スペース | <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 25%;">親・子・孫一体で遊べる所を多く</div> <div style="width: 25%;">山林(平山)は個人所有であっても、荒れていれば市で管理</div> <div style="width: 25%;">生き物との触れ合い</div> <div style="width: 25%;">祭り、盆踊り、地域交流を盛んにする</div> <div style="width: 25%;">お年寄りをもっと利用しよう</div> <div style="width: 25%;">役割を持たず</div> <div style="width: 25%;">子供のポランティア参加を推</div> <div style="width: 25%;">公民館などをいつも開放しておく</div> <div style="width: 25%;">大きな場の活用</div> <div style="width: 25%;">思川をきれいにする</div> <div style="width: 25%;">駅西口を有効に</div> <div style="width: 25%;">自治会活動を通じて触れ合う場を設ける</div> <div style="width: 25%;">プライベートについてのガイドラインを決められないか</div> <div style="width: 25%;">川や沼という資源を交流の場に</div> <div style="width: 25%;">思川沿いの活用</div> <div style="width: 25%;">いろいろな年代と関わりをもつ</div> <div style="width: 25%;">未利用地となっている水田、畑の有効活用</div> <div style="width: 25%;">思川を観光化させる</div> <div style="width: 25%;">自治会内で毎月スケジュールを元に行事を出す</div> <div style="width: 25%;">高齢者にコミュニティレストランをつくれな</div> <div style="width: 25%;">隣近所の交流を活発にする</div> <div style="width: 25%;">駅周りに集まりたくなる環境を</div> <div style="width: 25%;">ポケ防止のため行事を多く</div> <div style="width: 25%;">公園などで遊ぶ回数を</div> <div style="width: 25%;">他市町村の有料事業の視察</div> </div> | | | | | | |
| | <table border="1"> <tr> <td>自然環境(特に思川)を活かし、交流の場を増やす</td> <td>投票欄 ●●●●●●●●●●</td> </tr> <tr> <td>自治会の活性化(施設の活用等、コミュニティ活動)</td> <td>投票欄 ●●●●●●●●●●</td> </tr> <tr> <td>地域活性(企業の遊休設備の活用)</td> <td>投票欄 ●●</td> </tr> </table> | 自然環境(特に思川)を活かし、交流の場を増やす | 投票欄 ●●●●●●●●●● | 自治会の活性化(施設の活用等、コミュニティ活動) | 投票欄 ●●●●●●●●●● | 地域活性(企業の遊休設備の活用) | 投票欄 ●● |
| | 自然環境(特に思川)を活かし、交流の場を増やす | 投票欄 ●●●●●●●●●● | | | | | |
| | 自治会の活性化(施設の活用等、コミュニティ活動) | 投票欄 ●●●●●●●●●● | | | | | |
| 地域活性(企業の遊休設備の活用) | 投票欄 ●● | | | | | | |
| 残しておきたい意見 | ●● | | | | | | |
| 未利用地の管理(将来の子供のため) | ●● | | | | | | |

| 6 みんな健康でいきいきと幸せに暮らせるまちにするには | | | | | | | |
|-----------------------------|---|-------------------|-------------------|------------------------|-------------------|---------|-----------------|
| 討議メンバー | 平馬 川邊 石橋 岩崎 山口 | | | | | | |
| 討議作業スペース | <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;"> <div style="width: 25%;">思川土手で若者から高齢者の人たちでランニング</div> <div style="width: 25%;">大規模公園の整備</div> <div style="width: 25%;">筋肉トレーニングを近場に設置</div> <div style="width: 25%;">検診の助成拡大</div> <div style="width: 25%;">禁煙の徹底</div> <div style="width: 25%;">箱物(運動場・プール・いきがいセンター等)の整備</div> <div style="width: 25%;">検診のアピール(女性だけでなく男性も)</div> <div style="width: 25%;">「健康の森」のような総合健康施設を市で開設</div> <div style="width: 25%;">整備の整った環境を活用、自然とともに健康づくり交流</div> <div style="width: 25%;">市内に市民プール</div> <div style="width: 25%;">交通整備</div> <div style="width: 25%;">お年寄りの知恵、生活に根ざした伝承をおこなう</div> <div style="width: 25%;">高齢者と若い人の交流の場をつくる</div> <div style="width: 25%;">夕刻や早朝、一万歩歩く会など地域の人々と交流する場をつくり新しい人と出会う場をつくる</div> <div style="width: 25%;">育児施設の確保、病院の預かり</div> <div style="width: 25%;">外国から来ている人達との手ごたえのある友好の場をつくる</div> <div style="width: 25%;">いきがいづくり、老人大学</div> <div style="width: 25%;">「ピンピンコロリン」といったテーマをあげて具体的な運動、食事の提示をする</div> <div style="width: 25%;">もつと献血カーなどを駅前へ派遣し、献血をたくさんの人にアピール</div> <div style="width: 25%;">元気な高齢者が集まる場を提供</div> <div style="width: 25%;">高齢者を地域で見守るネットワーク</div> </div> | | | | | | |
| | <table border="1"> <tr> <td>健康づくりの施設と場の整備</td> <td>投票欄 ●●●●●●●●●●</td> </tr> <tr> <td>地域住民が年齢にかかわらず交流できる場づくり</td> <td>投票欄 ●●●●●●●●●●</td> </tr> <tr> <td>検診の助成拡大</td> <td>投票欄 ●●●●●●●●</td> </tr> </table> | 健康づくりの施設と場の整備 | 投票欄 ●●●●●●●●●● | 地域住民が年齢にかかわらず交流できる場づくり | 投票欄 ●●●●●●●●●● | 検診の助成拡大 | 投票欄 ●●●●●●●● |
| | 健康づくりの施設と場の整備 | 投票欄 ●●●●●●●●●● | | | | | |
| | 地域住民が年齢にかかわらず交流できる場づくり | 投票欄 ●●●●●●●●●● | | | | | |
| 検診の助成拡大 | 投票欄 ●●●●●●●● | | | | | | |
| 残しておきたい意見 | ●●● | | | | | | |
| 外国人との交流の場づくり、育児支援の確保 | ●●● | | | | | | |



3 - 2 第2回目話し合い

午 後

【第2回話し合いテーマ】

『歴史や自然環境を活かした魅力あるおやまにするには』

説明

小山は思川や渡良瀬遊水地などの豊かな自然や、数々の遺跡や小山評定に始まる古くからの歴史に恵まれています。

みなさんが、興味がある・訪れてみたいと思うまちは、どんなまちですか？

この恵まれた環境を活かし、より魅力あるまち・おやまにするには・・

ぜひ、皆様のご意見やアイデアなどをお聞かせ下さい。

情報提供

小山市企画財政部企画政策課 課長 森谷 昌敏 氏

<歴史を活かしたまちづくり>

小山市には、寺野東遺跡、県内最大級の規模をもつ前方後円墳である琵琶塚古墳・魔利支天塚古墳、また奈良から平安時代にかけて下野薬師寺に提供する瓦を造った乙女不動原瓦窯跡など、沢山の歴史的遺跡があります。

また、小山市の歴史上には、鎌倉幕府の成立に道筋をつけた小山氏の「野木宮の合戦」と江戸幕府の成立に道筋をつけた徳川家康の「小山評定」があります。他にも、徳川將軍家の日光社参の際に休憩所となった「小山御殿」や、小山の物流をささえた乙女河岸など、市内にはいたるところに沢山の歴史や文化財が残されています。小山市では、これらの財産を後世に承継するため

- ・小山評定を題材とした、小山評定劇や市民オペラ小山物語の上演
- ・武将の甲冑や陶人形の展示
- ・小山評定武将列伝の制作事業
- ・まんが「小山評定」の制作事業
- ・小山評定410周年記念事業であるシンポジウム開催
- ・(仮称)小山市歴史交流館の建設

などを企画・開催しております。

< 自然環境を活かしたまちづくり >

小山市の中央を南北に貫流する小山市のシンボル・思川を基点として

- ・ 花火大会を中心とした「サマーフェスティバル」
- ・ バルーンフェスタ
- ・ 流し雛
- ・ おやま思川アユ祭り・おやま思川サケ祭り

など、様々なイベントを開催しております。また、市民の憩いの場として、

- ・ 思川桜の里親制度事業
- ・ ほたるの館、ほたる祭り

などを実施しております。

今後は、琵琶塚、祇園城から鷲城、総合公園、粟宮、乙女、生井へ至る思川筋を整備予定です。

いいとこ教え隊おやま 事務局 浜田 敏路 氏

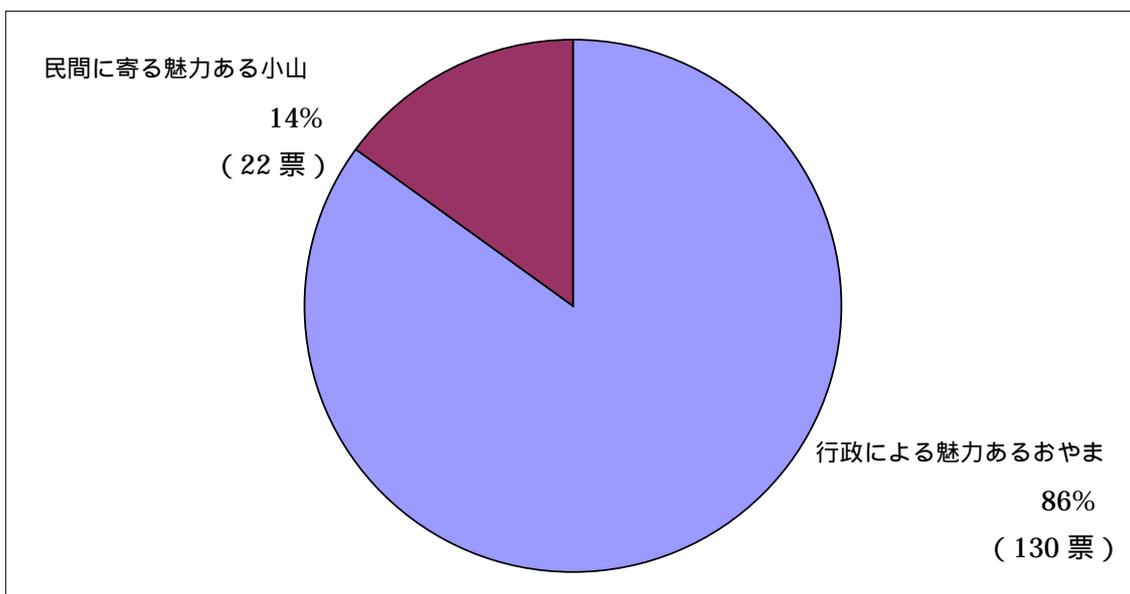
思川、大沼公園・渡良瀬遊水地など、小山は自然に恵まれ、さらに小山評定に始まる歴史と開運の地でもあります。

いいとこ教え隊おやまは、中心街の賑わい創出事業の一環として、平成13年から活動をスタートしました。翌年にはオリジナルマップを作成、平成16年には詩吟をガイドに取り込むほか、開運のまちおやまにあわせ、「開運コース」を作成する(平成17年)など精力的に活動に取り組んでいます。

討議結果のまとめ

第2回目は「歴史や自然環境を活かした魅力あるおやまにするには」をテーマに話し合いが行われました。討議の結果、市民の考える歴史や自然環境を活かした小山は「行政による魅力あるおやま」「民間による魅力あるおやま」という2つの要素が必要であることが分かりました。

全体的に見ると、小山市の歴史をPRすることが全体の過半数を占めています。個別の得票数を見るとPRするためのマップを作成した方が良いという意見が多く出ていました。歴史や自然環境を活かした魅力ある小山にするには歴史のPR・現状の自然の有効活用・教育機関での小山史跡学習などを行政、民間が相互に協力しながら構築していくものであるということが分かります。



残したい意見

- ・ 学校の授業に小山史跡を学ぶ機会を作る
- ・ イベントの充実（季節に合わせたイベント）
- ・ 電波事情が悪いので良くしてほしい
- ・ 思川の土手から天候によって富士山が見える
- ・ 小山めぐりのテレビ撮影（アド街ック天国等）
- ・ 電車広告
- ・ 上下水道完備
- ・ 生まれた歴史の伝承不足（小学生対象）
- ・ 桜の咲く季節に思川に舟を浮かべる

分析結果

| 提案・意見 | 投票 | 計 | 投票率 |
|--|-----|-----|------|
| 【第2テーマ】 歴史や自然環境を活かした魅力ある小山にするには | | | |
| 行政による魅力ある小山にするには | | | |
| 思川 ボート、屋形船、子どもの水遊び | 18 | 130 | 86% |
| おーバスによる観光めぐり | 14 | | |
| 歴史・自然の散策ルートマップの作成 | 12 | | |
| 案内板(観光スポット) | 11 | | |
| PRをもっと増やした方が良い。(場所・種類) JRの中に小山の特産物を置いたり、PRをしたりすると良いのでは。 | 10 | | |
| 国の有形文化財保存整備、活用 | 10 | | |
| 駅を起点にガイドマップ作り(ピンキーちゃん・ゆるキャラを挿入) | 10 | | |
| 観光案内などのPRの充実 | 9 | | |
| 小山市内史跡見学・・・小中学校、大人(バス・サイクリング等) | 8 | | |
| 広範囲の情報提供(ルートマップの配布方法など) | 8 | | |
| 思川での人とのふれあいの場を作る。 | 5 | | |
| マップ、パンフレット、広報紙によるPR(マンネリ化しない) | 5 | | |
| マップ、スタンプラリー | 4 | | |
| ウォーキングコース、アユ釣りなど自然環境に密着したもの(イベントなど)をつくと良い。 | 4 | | |
| イベントに合わせた歴史を語る会を催す。 事前PRを行う | 2 | | |
| 民間による魅力ある小山にするには | | | |
| 歴史や自然を感じられる街並作り | 9 | 22 | 14% |
| 地元愛を育てる(小中高の授業に取り入れる) | 9 | | |
| 小・中学校に小山の歴史のことを教えると良い。 | 4 | | |
| 合 計 | 152 | 152 | 100% |

| 1 歴史や自然環境を活かした魅力ある小山にするには | |
|---|--|
| <p>討議メンバー</p> <p>城又は橋を造れ(上田城のような橋だけ)</p> <p>名所、旧跡、食べ処等近隣名所を含め観光取組マップを作れ(旅行会社と連携)</p> <p>名所、旧跡の掘り起こしならびに周知</p> <p>地元テレビなどで放送する</p> <p>案内板が不足しているから増やした方がいいパーキ</p> <p>MAP片手の取組は非常に美しい(MAPの整備)</p> <p>史跡のスタンプラリーを作る</p> <p>歴史の分かりやすいマップをつくる</p> <p>国の有形文化財の保存整備に協力したほうがいい</p> <p>駅西口(新)人が集まりやすく</p> <p>教科書にない一般の歴史(民俗)を子供に教える</p> <p>子供のころから地域の歴史にふれる</p> <p>幼稚園、小、中、高生が歴史の場所に何らかの形で体感することによって、自然と魅力を感じ将来その魅力を教えられる人になる</p> <p>駅構内に案内板を設置</p> <p>小山にゆかりの文化人を(武士ではなく)アピールする</p> <p>思川に屋形船を浮かべる</p> <p>駅に町の各所案内をかける</p> <p>ハイキング、サイクリングなど城跡などを回るようなコースを作る</p> <p>街の求心力を作る</p> <p>思川河川敷に子供のための冒険施設を作る</p> <p>思川流域整備</p> <p>思川の流れとは別に憩いのポイント等水の遊び場</p> <p>緑豊かなと言いつつ別荘地が多い、公園緑地も増やせ小山1人平均8.09㎡</p> <p>水田(放棄地)の活用子供の田植、かかし</p> <p>思川の美化を年代を超えて行うような行事を作る</p> | |
| <p>まとめ</p> <p>国の有形文化財保存整備、活用 投票欄</p> <p>思川ポート、屋形船、子供の水遊び 投票欄</p> <p>マップ、スタンプラリー 投票欄</p> | |
| <p>残しておきたい意見</p> <p>学校の授業に小山史跡を学ぶ機会を作る</p> | |

| 2 歴史や自然環境を活かした魅力ある小山にするには | |
|---|--|
| <p>討議メンバー</p> <p>自然豊かな環境を交通の利便性に配慮された場所の瀬</p> <p>思川のゴミ拾いや掃除を市民でボランティアを募り行う</p> <p>思川、大沼公園、渡良瀬遊水地</p> <p>小山市の発展の基礎を築いたと言われる歴史遺産を活用</p> <p>思川マラソンの充実</p> <p>サマーフェスティバル終了後、開始前の交通整理の徹底</p> <p>ドラマ、劇などに取上げる</p> <p>子供での歴史教育をして地元愛を育てる</p> <p>中学校、小学校に「おやま」のことについての新聞などを配布子供にも分かりやすいような広報紙</p> <p>もっと小・中の授業内で小山市の歴史の勉強、社会科見学の充実</p> <p>サマーフェスティバルのゴミ捨て場が分かりづらい、もっと分かりやすい</p> <p>駅中(改札の出入口)に市の案内を用意して欲しい</p> <p>中心部に歴史に関することを集める</p> <p>小山駅にフリーペーパー(歴史や小山のことについて)目立たせるポスターなど</p> <p>まちの駅が存在があまり知られていないので、もっと市民にアピールし有効に活用してもらえるよう努める</p> <p>観光(県外、都市部)農業体験</p> <p>駅前観光案内所をつくる</p> | |
| <p>まとめ</p> <p>観光案内などのPRの充実 投票欄</p> <p>地元愛を育てる(小中高の授業に取り入れる) 投票欄</p> <p>歴史に自然を感じられる街並作り 投票欄</p> | |
| <p>残しておきたい意見</p> <p>イベントの充実(季節に合わせたイベント)</p> | |

| 3 歴史や自然環境を活かした魅力あるおやまにするには | |
|--|--|
| <p>討議メンバー</p> <p>バルーンなどを利用して、土日の帰ってきた人にアピールしたい。</p> <p>アユ釣りをもっとアピールしたほうがいい。</p> <p>林の中をウォーキングするコースを整備しPRするのといいと思う。</p> <p>歩いて行けるMAPをつくるなど、来た人へのアピールをした方がいいか</p> <p>自然は豊か</p> <p>思川の河川敷の未使用地を使った遊歩道</p> <p>PRしやすいように公共施設を整備して充実させると良い</p> <p>市外への宣伝(PR)</p> <p>花火大会などの小山独自のイベントをこれからも続けていき、多くの人達を引きつけることができるように外部へのPRをもっと多く</p> <p>宣伝とか外部への発信が足りない</p> <p>外部へのPRが不足している</p> <p>小山の歴史を小中学生に教えると良い</p> <p>もう少し歴史の事を学生におしえるといい</p> <p>電波事情が悪いの</p> <p>思川の土手から見える富士山が天候によって見えるのも</p> <p>PR不足では</p> <p>JRと協力不足では</p> <p>JRの駅でもっと小山のものをPRしたいの</p> <p>小山市の特産品をJRの売店におく</p> | |
| <p>まとめ</p> <p>PRをもっと増やした方がいい。(場所・種類) JRの中に小山の特産品を置いたり、PRをしたりすると良いのでは。 投票欄</p> <p>ウォーキングコース、アユ釣りなど自然環境に密着したもの(イベントなど)をつくると良い。 投票欄</p> <p>小・中学生に小山の歴史のことを教えると良い。 投票欄</p> | |
| <p>残しておきたい意見</p> <p>電波事情が悪いので良くしてほしい。</p> <p>思川の土手から天候によって富士山が見える。</p> | |

| 4 歴史や自然環境を活かした魅力あるおやまにするには | |
|---|--|
| <p>討議メンバー</p> <p>小中学生に小山市内の歴史めぐり</p> <p>小中学校の遠足や社会科見学に歴史</p> <p>学校の社会科見学などにもいかに教え隊のみなさんさんの協力があるといいです</p> <p>小山全体のマップがほしい</p> <p>史跡のガイドパンフレットを</p> <p>パンフレット配布</p> <p>学校で集まって見学をしよう</p> <p>商店街の人が観光客に親切に</p> <p>か(れ)ス(ポ)ットとして楽しむ</p> <p>寺、教会、神社等で歴史を学ぶ。(小学生)違う宗教や考え方が有るとい事を学ぶ(小学生)</p> <p>マップ作成の折衝場所への道を(わ)く</p> <p>各史跡を整備する</p> <p>歴史を見せるための権元模型</p> <p>城跡を復元できるともっとわかりやすい</p> <p>桜まつりの時に小山の歴史や自然を</p> <p>思川桜まつりを出来るように</p> <p>小山の歴史をモチー</p> <p>季節に合わせた歴史について聞かせる</p> <p>自然を守るために上下水道の完備</p> <p>小山めぐりのテレビ撮影</p> <p>小山イベントの宣伝する東北線電車内広告など(つりかわ広告)</p> <p>みんながわかりやすいようにマンガチェックなガイドマップをつくる</p> | |
| <p>まとめ</p> <p>小山市内史跡見学…小中学校、大人(バス・サイクリング等) 投票欄</p> <p>駅を起点にガイドマップ作り(ピンキーちゃん・ゆるキャラを挿入) 投票欄</p> <p>イベントに合わせた歴史を語る会を催す事前にPRを行う 投票欄</p> | |
| <p>残しておきたい意見</p> <p>小山のめぐりのテレビ撮影(アド街ック天国等)電車広告、上下水道完備</p> | |

| 5 歴史や自然環境を生かした魅力あるおやまにするには | |
|---------------------------------|--|
| 討議メンバー | |
| 討議作業スペース | <p>キャンプ場等の施設が足りない</p> <p>乙女河川再生の創出と観光</p> <p>歴史イベントと自然としての景のめぐりといったものを結び付けて多重的利点をつくる</p> <p>休耕地の活用(都会から家庭菜園の利用者を呼び込む)</p> <p>思い川の有効活用</p> <p>ロードマップハイキングコースの作成</p> <p>思川に舟を浮かべて川の良さを知らせる</p> <p>思川緑地公園などいかしたキャンプ施設等 小山のPR</p> <p>自然を生かしたイベントが周知されていない</p> <p>友人を連れたい見学場所がない</p> <p>ガイドマップの配布の仕方</p> <p>小山市マップなど作成してまち創りに生かす</p> <p>史跡めぐりの移動手段がない</p> <p>通勤後のため駅での宣伝を通しての周知推進</p> <p>ランドマークがない</p> <p>歴史めぐりをしたくてもどこにいけばよいか解らない</p> <p>これが小山の歴史というものがわかりにくい</p> <p>歴史マップなどで小山のPR</p> <p>埋もれた歴史の伝承が不足、小学生の時から昔話で故郷の良さを伝えるべき</p> <p>観光マップが欲しいあつて置いてある場所がわかりにくい</p> <p>古い街並みがない</p> <p>全国に知られている建物や史跡がない(いわからない)</p> <p>半日コース位で自然、歴史めぐりを結ぶウォーク・レンタサイクルの創出</p> |
| | <p>ハイキングコースにバイタルチェック</p> <p>乙女川岸を復元し屋形船で思川を行ける観光コースを</p> <p>けいたい、モバイルなどと連携して観光案内を表示</p> <p>歴史や自然をテーマにしたマップ</p> <p>史跡への案内板がほしい</p> <p>よい所のパンフレット作成</p> <p>歴史のPRをもっと増やしてほしい</p> <p>小山広報誌をマンネリ化せず新たに作成してほしい</p> <p>まちなかボランティアにおバスのコースを作ってほしい</p> <p>車の利用者が多い</p> <p>小山に駐車場を整備して川に親しめるようにしてほしい</p> <p>バスコースの新設</p> |
| | <p>ハイキングコースにバイタルチェック</p> <p>乙女川岸を復元し屋形船で思川を行ける観光コースを</p> <p>けいたい、モバイルなどと連携して観光案内を表示</p> <p>歴史や自然をテーマにしたマップ</p> |
| | <p>史跡への案内板がほしい</p> <p>よい所のパンフレット作成</p> <p>歴史のPRをもっと増やしてほしい</p> <p>小山広報誌をマンネリ化せず新たに作成してほしい</p> <p>まちなかボランティアにおバスのコースを作ってほしい</p> <p>車の利用者が多い</p> <p>小山に駐車場を整備して川に親しめるようにしてほしい</p> <p>バスコースの新設</p> |
| まとめ | <p>歴史・自然の散策ルートマップの作成 投票欄</p> <p>広範囲の情報提供(ルートマップの配布方法など) 投票欄</p> <p>思川での人とのふれあいの場を作る 投票欄</p> |
| 残しておきたい意見 生まれた歴史の伝承不足(小学生対象) | |

| 6 歴史や自然環境を活かした魅力あるおやまにするには | |
|--------------------------------|---|
| 討議メンバー | |
| 討議作業スペース | <p>対象となる場所の紹介を看板設置</p> <p>案内板を多数おいてほしい</p> <p>史跡への案内板がほしい</p> <p>よい所のパンフレット作成</p> <p>歴史のPRをもっと増やしてほしい</p> <p>観光バスを走らせる</p> <p>小山広報誌を活用して乙女川岸などPR</p> <p>パンフレット等を駅などにおいてどんな史跡、自然があるかもっとアピールしてほしい</p> <p>小山広報誌をマンネリ化せず新たに作成してほしい</p> <p>まちなかボランティアにおバスのコースを作ってほしい</p> <p>車の利用者が多い</p> <p>小山に駐車場を整備して川に親しめるようにしてほしい</p> <p>バスコースの新設</p> <p>史跡めぐりの移動手段がない</p> <p>通勤後のため駅での宣伝を通しての周知推進</p> <p>ランドマークがない</p> <p>歴史めぐりをしたくてもどこにいけばよいか解らない</p> <p>これが小山の歴史というものがわかりにくい</p> <p>歴史マップなどで小山のPR</p> <p>埋もれた歴史の伝承が不足、小学生の時から昔話で故郷の良さを伝えるべき</p> <p>観光マップが欲しいあつて置いてある場所がわかりにくい</p> <p>古い街並みがない</p> <p>全国に知られている建物や史跡がない(いわからない)</p> <p>半日コース位で自然、歴史めぐりを結ぶウォーク・レンタサイクルの創出</p> |
| | <p>ハイキングコースにバイタルチェック</p> <p>乙女川岸を復元し屋形船で思川を行ける観光コースを</p> <p>けいたい、モバイルなどと連携して観光案内を表示</p> <p>歴史や自然をテーマにしたマップ</p> <p>史跡への案内板がほしい</p> <p>よい所のパンフレット作成</p> <p>歴史のPRをもっと増やしてほしい</p> <p>小山広報誌をマンネリ化せず新たに作成してほしい</p> <p>まちなかボランティアにおバスのコースを作ってほしい</p> <p>車の利用者が多い</p> <p>小山に駐車場を整備して川に親しめるようにしてほしい</p> <p>バスコースの新設</p> |
| | <p>ハイキングコースにバイタルチェック</p> <p>乙女川岸を復元し屋形船で思川を行ける観光コースを</p> <p>けいたい、モバイルなどと連携して観光案内を表示</p> <p>歴史や自然をテーマにしたマップ</p> |
| | <p>史跡への案内板がほしい</p> <p>よい所のパンフレット作成</p> <p>歴史のPRをもっと増やしてほしい</p> <p>小山広報誌をマンネリ化せず新たに作成してほしい</p> <p>まちなかボランティアにおバスのコースを作ってほしい</p> <p>車の利用者が多い</p> <p>小山に駐車場を整備して川に親しめるようにしてほしい</p> <p>バスコースの新設</p> |
| まとめ | <p>案内板(観光スポット) 投票欄</p> <p>マップ、パンフレット、広報紙によるPR(マンネリ化しない) 投票欄</p> <p>おバスによる観光めぐり、駐車場整備 投票欄</p> |
| 残しておきたい意見 桜の咲く季節に思川に舟を浮かべる。 | |



3 - 3 第3回目話し合い

午 後

【第3回目話し合いテーマ】

『元気なまちになるために、おやまの産業を活かす方法は』

《説 明》

近年の長引く経済不況や景気の悪化により、企業をとりまく環境は厳しい状況にあります。小山の農・工・商業それぞれの特性を活かし、小山をより活気溢れる元気なまちにするには、どのような考え、新しい取り組みなどがあるでしょうか。

皆様のご意見やアイデアをお聞かせください。

《情報提供》

小山市経済部農政課 課長 大久保 誠 氏

< 農業の現状 >

小山市は、市の中央を南に流れる思川を境に、大きく3分されています。

主な地域の特徴は、

思川西部水田地帯・・・稲・麦を中心に大豆、はとむぎ、露地野菜、酪農、和牛飼育

思川東部畑作地帯・・・稲・麦・施設野菜・露地野菜・瓢箪・養蚕・果樹

鬼怒川流域農業地帯・・・稲・麦・露地野菜・養蚕・結城紬

となっており、特色ある農業経営（複合経営）を行っています。

| | | |
|-------------------|-----------------------|---------------------|
| 経営耕地面積 6.584ヘクタール | 水田 | 5.245ヘクタール (79.66%) |
| | 普通畑 | 1.195ヘクタール (18.15%) |
| | 樹園地 | 1.45ヘクタール (2.20%) |
| | 一戸あたり平均耕地面積 1.95ヘクタール | |

| | | |
|-------------|---------|-----------------|
| 農家戸数 3.374戸 | 専業農家 | 660戸 (19.56%) |
| | 第1種兼業農家 | 766戸 (22.70%) |
| | 第2種兼業農家 | 1.948戸 (57.74%) |

ビール麦・はとむぎ・・・生産日本一

白菜・レタス・キャベツ・ニンジン・・・県下一

おやま和牛（黒毛和牛）・・・県下一

< 今後の課題 >

1. 今後の市の農業を担う担い手の育成が必要
2. 農家の整備や有効活用の必要性
3. 地産地消の推進の必要性
4. 農産物・加工品のブランド化の推進
5. 生産者と消費者の交流
6. 農商工連携の推進

<今後の施策の基本方針>

- ・ 東京圏から 60km という地理的条件を活かした首都圏農業への対応
- ・ 道の駅思川を活用したおやまブランドの創生と発信
- ・ 快適で魅力ある豊かな農村づくり

など、地域生活に密着した新しい都市近郊型農業を目指します。

小山市経済部農村整備課 課長 田中 克巳 氏

農村整備課では、農村環境の保全と快適な生活空間作りを目指しています。

現在の状況として、

- ・ 農業者の高齢化・担い手の弱体化による遊休農地の増加
- ・ 農村集落の過疎化
- ・ 混住化の進行による集落機能の低下

など、様々な課題があげられます。

そのため、以下のことを実施し、問題の解消・改善に努めています。

- ・ 老朽化した土地改良施設の維持、保全
- ・ 水田の再整備
- ・ 経営規模を拡大し、自立した農業経営
- ・ 農業集落排水事業や農地・水・環境保全向上活動の実施

小山市経済部工業振興課 主幹 荒川 正治 氏

小山市では、1960年代より工業団地の開発、優良企業の誘致を積極的に推進しております。

現在小山市では、

- ・ 8箇所の工業団地を整備
- ・ 単独立地の企業を合わせ、300余りの工業系団地が操業

しております。これらの製造品出荷額は、約7.796億円（平成20年度速報値）

となっております。また、既存企業に対する支援策として、各種助成制度をもうけております。

<企業誘致>

- ・ 市内工業団地はすべて完売（「小山東部梁山工業団地」約1.6ヘクタール含む）

<小山東工業団地>（元旭硝子所有地・1.6ヘクタール）

- ・ 平成23年度分譲を予定
- ・ 北関東トップクラスの低分譲価格（平均17.000円/㎡）

小山市経済部商業観光課 課長 生賀 幸男 氏

<商業振興の施策>

（1）中心市街地商業出店等促進事業

小山駅西口から観光橋までを対象区域として、空き店舗への新規出店者に対し、家賃 12 ヶ月 60 万円・内装改修費 100 万円を限度に補助金を交付。現在 6 店舗が補助を受け出店しています。

(2) 中心市街地活性化 TMO 事業

(3) 商工団体の育成支援及び地域振興活性化事業

商工関係団体等と連携協力し、「開運小山市共通商品券発行事業」を実施。

今年度は、12 月に総額 3 億 3 千万円の共通商品券を発行予定。

(4) 市制度融資事業

市内金融機関と連携し、市内中小企業に対して低利で融資を行っています。

< 観光振興の施策 >

小山市の数多くの優れた地域資源を観光資源として活用し、小山市の知名度アップ・市外からの誘客を促進する観光事業を推進しています。

(1) 「開運のまちおやま」推進大プロジェクト

(2) 観光イベント事業

・サマーフェスティバル「小山の花火」(県内外から 45 万人の集客)

・「おやまのさくらまつり」

・「おやまのバルーンフェスタ」

など、年間を通して数多くの市民参加型イベントを開催しております。

(3) 地域資源活用事業

・車屋美術館

・乙女河岸と舟運

・御殿広場と小山御殿復興

< 小山ブランド創生推進の施策 >

小山市では、2002 年度から、7 分野にわたって「小山ブランド」の創生運動を推進しており、現在では 77 品目のおやまブランド品が選定されています。

また、2008 年度からは、積極的に東京方面に出向き PR をし、全国的な小山のイメージアップ・知名度の向上を図っています。

小山鋼材 (株) 代表取締役 宮内 保 氏

小山市は国道 4 号線・50 号線をはじめ、新幹線が停車するなど交通の要所であり、結城つむぎに代表される伝統工芸、市内に 5 件ある造り酒屋などがあります。

また、工業が発展している小山には大学・高専・専門学校等があり、産業技術が更に発展する素地があります。面白そうなイベントや場所があり、街角から笑い声や歓声が聞こえてくる元気なまちには、これらの豊かな産業を活かしていくことが必要不可欠となります。



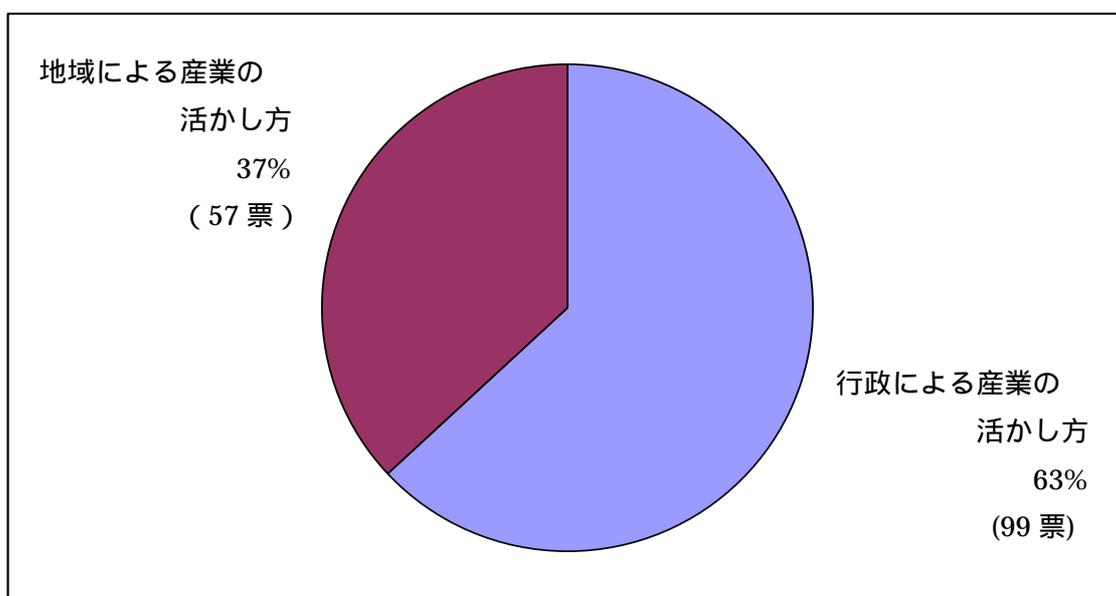
討議結果のまとめ

第3回目は「元気なまちになるためにおやまの産業を活かす方法は」をテーマに話し合いが行われました。討議の結果、市民の考えるおやまの産業を活かす方法には「行政による産業の活かし方」「地域による産業の活かし方」という2つの要素が必要であることが分かりました。

全体的に見ると、農業の推進が過半数を占めており、教育の場に農業を体験させるなどの意見が多く出ておりました。

個別の得票数を見ると農業の活性化やブランド化など食の部分で市民の関心が非常に高いことがうかがえます。

おやまの産業を活かすは農業・企業・ブランドのPRを市民と行政が相互に協力しながら構築していくものであるということが分かります。



残したい意見

- ・ 思川の水を50mの高さまでくみ上げ滝を作る
- ・ 小山市の生産物、販売をする
- ・ 工場見学ツアー、イベント等を通して、小山の企業について知ってもらう
- ・ 小山ブランドや特産物のPRをもっと増やした方が良い
- ・ 地域外の人が家庭菜園などに参加できるような環境作り（東京、埼玉など）
- ・ 農業特産物と結びつけたイベントの機会を増やす
- ・ 市営農園を運営する
- ・ 先進企業の技術力の継承

分析結果(第3テーマ)

| 提案・意見 | 投票 | 計 | 投票率 |
|---------------------------------------|-----|-----|------|
| 【第3テーマ】 元気なまちになるためにおやまの産業を活かす方法は | | | |
| 行政による、おやまの産業を活かす方法 | | | |
| 企業の持てる力の有効活用・支援 | 17 | 99 | 63% |
| 県外への小山の農産物のPRをし、農業体験を行えるようにする | 13 | | |
| 学生に農業体験させ、職業選定の窓口を開く | 12 | | |
| 学校の授業に農業を取り入れる | 11 | | |
| 農業の企業化(担い手育成) | 10 | | |
| 農業に従事できる環境を考える(若者たち、シルバー) | 10 | | |
| PR(ブランド米、地酒、イベント) | 8 | | |
| 農地の有効活用 | 6 | | |
| 働きたい人の雇用があるまちに | 5 | | |
| 駅周辺の活性化 | 5 | | |
| 農業自体を行いやすい環境を作る | 2 | | |
| 地域による、おやまの産業を活かす方法 | | | |
| 人が集まるようなお店・スペースを作るとよい(ライブ会場等若者が集まる場所) | 16 | 57 | 37% |
| 農業体験 | 9 | | |
| 見学できる工場を増やし、小山市に人を呼び込む | 9 | | |
| 残れるような企業 | 7 | | |
| 自給自足の実現(遊休地活用) | 6 | | |
| 駅前に小山ブランドを扱った店を増やす | 6 | | |
| 伝統工芸館等をつくり、展示販売等をする | 4 | | |
| 合計 | 156 | 156 | 100% |

| 1 元気なまちになるためにおやまの産業を活かす方法 | |
|---------------------------|--|
| 討議作業スペース | <p>討議メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> 農家経営の中身を明らかに公示良いものを伝え 伝統工芸を発表する場 野菜直売の拡大 農業をやりたい人に体験さ 遊休地の利用 小中学校で農園経営させる 学生に小山ブランドを作ってもらうはとむぎみそ農工業 学校の授業に取り込 遊休地の再利用としてやりたい体験者を募り野菜作りを提供する 学校農園 小中高の子供たちに野菜やくだもの食べるもの体験 季節のくだものを収穫する手伝い体験 工場開放 思川の水を50mの高さまでくみ上げ滝をつくる 子供に農業体験をさせる |
| | <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の授業に農業を取り入れる 投票欄 ●●●●●●●● 自給自足の実現(遊休地活用) 投票欄 ●●●●●●●● 農業の企業化(担い手育成) 投票欄 ●●●●●●●● <p>残しておきたい意見 思川の水を50mの高さまでくみ上げ滝を作る ●</p> |

| 2 元気なまちになるためにおやまの産業を活かす方法 | |
|---------------------------|---|
| 討議作業スペース | <p>討議メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> 作物を作る指導者がいたらよいと思う 農業の体験 駅構内でも市農産物を販売出来るように 地酒の大会を開く(バスで送迎) 農地を持っている人が借地園として指導及び提供出来るように 小山市のブランドを販売する いちごのスイーツをもっと作る。アイス 生産物の試食を設ける ブランド米を作る 農地を貸し出す 産業祭5年に1度ではなく毎年1度にしたほうがよい 道の駅思川の駐車場をもっとふやしてほしい 駐車場を数多く作る 大学生・高専生が企業に就職出来るようになる 若者を受け入れる産業 出店している店のPRがない一般の人にとこなの分かるように 若者が参加出来るようなイベント イベントのPRを電車内にする PRを積極的にする イベントのPRをもっとする 5つある酒造のPRに力を入れる |
| | <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> PR(ブランド米、地酒、イベント) 投票欄 ●●●●●●●● 農業体験 投票欄 ●●●●●●●● 残れる様な企業 投票欄 ●●●●●●●● <p>残しておきたい意見 小山市の生産物、販売をする ●</p> |

| 3 元気なまちになるためにおやまの産業を活かす方法 | |
|---------------------------|--|
| 討議作業スペース | <p>討議メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> 根本は農業ではないか 農業をしたい都会人の面倒を見る 若者の農業離れSTOP 幼いころから農業に慣れ親しむ、農業体験 県外の人 共同の農地を提供 土日に来て畑をやる 農業を行いやすい環境(補助など)をつくり 小山に休耕地を直接消費者やレストラン等との契約を行う 工場見学ツアー、イベント等を通して、小山の企業について知ってもらう 参加型農業体験をもっと盛んにやったらよいと思います 人が集まるようなお店・スペースをつくと良い。(ライブ会場等の若者が集まる場所) 東京などの都会の人が気軽に農業体験ができるような仕組みがあるといい 農業自体を行いやすい環境をつくる 県外への農産物小山のPRをし、農業体験を行えるようにする(家庭菜園など) 駅西口の駅前をもっと盛んにして人を集められるようにして欲しい 歩いておもしろい商店がない、魅力がない、話になるような通りが欲しい 地を利を生かしたまちづくり 街角に人が集まるスペースがあるといいな ライブ会場祭りなどでアーティストを呼ぶ 小山ブランドのPR 小山市民と県内外 小山ブランドや特産物のPRをもっと増やした方がよい 小山の特産物をもっと色々な場所に置くようにすると購入しやすくなって良い 小山市の産業のマスタープランができていいか 産業イベントを活用して小山の産業について住民に知ってもらうこと 工場見学ツアー等を企画して地元の人に企業を知ってもらったらいいいと思います |
| | <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業自体を行いやすい環境をつくる 投票欄 ●● 県外への小山の農産物のPRをし、農業体験を行えるようにする 投票欄 ●●●●●●●● 人が集まるようなお店・スペースをつくとよい(ライブ会場等若者が集まる場所) 投票欄 ●●●●●●●● <p>残しておきたい意見 ・工場見学ツアー、イベント等を通して、小山の企業について知ってもらう。 ●●● ・小山ブランドや特産物のPRをもっと増やした方がよい。</p> |

| 4 元気なまちになるためにおやまの産業を活かす方法 | |
|---------------------------|--|
| 討議作業スペース | <p>討議メンバー</p> <ul style="list-style-type: none"> 若い人が雇用がある街に 水と緑のおやま市を守っていくには、農地を減らしたくない 農業労働力にシルバー人材を活用する 若い人が農業を続けるまちに 東京圏の有機野菜を生かした野菜作り 農業に若い若い人が出来る環境を 伝統工芸館を道の駅の隣に作り、伝統工芸品を展示、販売したらどうか 無職の人を予備の工務員にする 家庭菜園などを東電などの住人にいれるように 小山市を東京・埼玉勤務の人たちの住居に |
| | <p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きたい人の雇用があるまちに 投票欄 ●●●●●●●● 農業に従事できる環境を考える(若者たち、シルバー) 投票欄 ●●●●●●●● 伝統工芸館等を作り、展示販売等をする 投票欄 ●●●●●●●● <p>残しておきたい意見 地域外の人が家庭菜園などに参加出来るような環境作り(東京、埼玉など) ●●●●●●●●</p> |

| 5 元気なまちになるためにおやまの産業を活かす方法 | |
|---|---|
| <p>議論メンバー</p> <p>まの駅「四季彩館」は野菜を売っていたり、ボックスマーケットなどがあり、外観も良いので、もっと市民の人に來てもらえるよう、駅やロビーなどに案内図をおき、もっとアピールすべき</p> <p>農産物としての梨と観光としてのおやまのイベントを結びつ</p> <p>小山の農産物を市内のレストランで使う</p> <p>市内の農家などで、就活生(大学生)に農業を夏休みなどに体験してもらい、就職先の1つとして提供する</p> <p>小山市和牛の料理を小山市内のレストランで扱い、もっと市民に小山和牛を身近に感じてもらう</p> <p>小山駅の土産屋に、小山の特産品を積極的に置く</p> <p>農業を企業として成り立たせ、休耕地の統合をする</p> <p>白鷲大学の学生で有志をつのり、道の駅やまちの駅で、イベントを行ったり地域と大学生の交流と活性をはかる</p> <p>駅前通りに小山ブランド品や地産品をつかった料理の提供</p> <p>小中学生の稲作や農作業の体験を社会科見学や職場体験で実施。子どもたちに、農業の仕事を知ってもらう</p> <p>農業大学、農業大学校を設置して、卒業後、農業に携わってもらう</p> <p>森永のチョコボールキョロちゃんの出生地アピールをもっとして行く</p> <p>市営農園をつくって運営する</p> <p>おかし等の工場見学をさせる工場をふやし小山市への人的交流を増やす</p> <p>工場見学ツアーを企画する</p> | <p>議論メンバー</p> <p>大手企業で働く人々が定住しなくなる町づくりと交通網の整備</p> <p>U工工事のネタに使用してもらって「小山ブランド」を全国区にする</p> <p>企業名板作成規模・業種</p> <p>西口の過疎化を解消すること</p> <p>近所とのふれあい(子供)</p> <p>旧市内食料品店無し 新設・誘致望む</p> <p>ケータイの発信力を生かしてアピールサイトの運営等</p> <p>遊休耕地の利用子供の田舎かかし祭り</p> <p>駅周辺に表示板設置</p> <p>農家との交流</p> <p>年間を通してのイベント開催</p> <p>中国はのびているので中国輸出や観光客を誘致する</p> <p>様々なブランドがある中、知られていないのでアピールすべき</p> <p>交通の便を良くして色々な人がこれるように</p> <p>農園作り(貸し農園)</p> <p>フィルムコミッション「担当や市民応援団活動隊をつくる</p> <p>本日から「はと麦茶」に小山市原産の文字を入れる</p> <p>地場名産物製品の開発努力</p> <p>地場製品のおみやげ産物としての周知</p> <p>西口の活性化花壇設置</p> <p>地場野菜(古調理)の周知</p> |
| <p>議論作業スペース</p> | <p>議論作業スペース</p> |
| <p>まとめ</p> <p>学生に農業体験をさせ、職業選定の窓口をひらく</p> <p>見学できる工場をふやし、小山市に人を呼びこむ</p> <p>駅前に小山ブランドをあつかった店をふやす</p> | <p>投票欄</p> <p>●●●●●●●●●●</p> <p>投票欄</p> <p>●●●●●●●●●●</p> <p>投票欄</p> <p>●●●●●●●●●●</p> |
| <p>残しておきたい意見</p> <p>農業特産物と結びつけたイベントの機会をふやす。市営農園を運営する。</p> | <p>残しておきたい意見</p> <p>先進企業の技術力の継承</p> |

| 6 元気なまちになるためにおやまの産業を活かす方法 | |
|---|---|
| <p>議論メンバー</p> <p>まの駅「四季彩館」は野菜を売っていたり、ボックスマーケットなどがあり、外観も良いので、もっと市民の人に來てもらえるよう、駅やロビーなどに案内図をおき、もっとアピールすべき</p> <p>農産物としての梨と観光としてのおやまのイベントを結びつ</p> <p>小山の農産物を市内のレストランで使う</p> <p>市内の農家などで、就活生(大学生)に農業を夏休みなどに体験してもらい、就職先の1つとして提供する</p> <p>小山市和牛の料理を小山市内のレストランで扱い、もっと市民に小山和牛を身近に感じてもらう</p> <p>小山駅の土産屋に、小山の特産品を積極的に置く</p> <p>農業を企業として成り立たせ、休耕地の統合をする</p> <p>白鷲大学の学生で有志をつのり、道の駅やまちの駅で、イベントを行ったり地域と大学生の交流と活性をはかる</p> <p>駅前通りに小山ブランド品や地産品をつかった料理の提供</p> <p>小中学生の稲作や農作業の体験を社会科見学や職場体験で実施。子どもたちに、農業の仕事を知ってもらう</p> <p>農業大学、農業大学校を設置して、卒業後、農業に携わってもらう</p> <p>森永のチョコボールキョロちゃんの出生地アピールをもっとして行く</p> <p>市営農園をつくって運営する</p> <p>おかし等の工場見学をさせる工場をふやし小山市への人的交流を増やす</p> <p>工場見学ツアーを企画する</p> | <p>議論メンバー</p> <p>大手企業で働く人々が定住しなくなる町づくりと交通網の整備</p> <p>U工工事のネタに使用してもらって「小山ブランド」を全国区にする</p> <p>企業名板作成規模・業種</p> <p>西口の過疎化を解消すること</p> <p>近所とのふれあい(子供)</p> <p>旧市内食料品店無し 新設・誘致望む</p> <p>ケータイの発信力を生かしてアピールサイトの運営等</p> <p>遊休耕地の利用子供の田舎かかし祭り</p> <p>駅周辺に表示板設置</p> <p>農家との交流</p> <p>年間を通してのイベント開催</p> <p>中国はのびているので中国輸出や観光客を誘致する</p> <p>様々なブランドがある中、知られていないのでアピールすべき</p> <p>交通の便を良くして色々な人がこれるように</p> <p>農園作り(貸し農園)</p> <p>フィルムコミッション「担当や市民応援団活動隊をつくる</p> <p>本日から「はと麦茶」に小山市原産の文字を入れる</p> <p>地場名産物製品の開発努力</p> <p>地場製品のおみやげ産物としての周知</p> <p>西口の活性化花壇設置</p> <p>地場野菜(古調理)の周知</p> |
| <p>議論作業スペース</p> | <p>議論作業スペース</p> |
| <p>まとめ</p> <p>企業に持てる力の有効活用・支援</p> <p>農地の有効活用</p> <p>駅周辺の活性化</p> | <p>投票欄</p> <p>●●●●●●●●●●</p> <p>投票欄</p> <p>●●●●●●●●●●</p> <p>投票欄</p> <p>●●●●●●●●●●</p> |
| <p>残しておきたい意見</p> <p>農業特産物と結びつけたイベントの機会をふやす。市営農園を運営する。</p> | <p>残しておきたい意見</p> <p>先進企業の技術力の継承</p> |



第4章 小山市民討議会の検証

4 - 1 小山市民討議会実施後の取り組み

中間報告会

中間報告会が9月16日に開催され、討議会で討議された討議シートの内容について参加者に確認して頂く場として設定いたしました。

討議会が開催されてから月日がたっていることから記録をたどりながらの確認となりましたが、参加者から様々なご意見等を頂き完成度の高い報告書とするための有意義な中間報告会となりました。

報告書の作成、提出

討議会の実施から中間報告会を経て報告書の作成を行いました。報告書の作成に際して注意した点は、あくまで討議会の内容をかたちにすること、市民にわかりやすく、かつ見やすい報告書作りを目指すことです。また、実行委員会の作為が入らないように、討議会での話し合いや、投票の結果を参加者の意見としてどのようにまとめるかに苦心しました。

アンケート資料を使って、客観的に分析することで、この報告書を充実させる内容としました

10月下旬、大久保市長へ報告書を手渡しさせていただきます。報告書を市に提出する目的は、普段行政に対して意見を述べる機会の少ない市民たちの生活する上で生まれる知識やアイデア、感覚を行政の政策立案に反映させることにあります。

事後のフォロー

討議参加者は、報告書を提出した後の小山市の対応について、当然大きな関心を持っていると思います。

報告書が具体的にどのような形で反映されるか実行委員会が引き続き見守っていきたいと思います。

4 - 2 アンケート調査の結果について

1 . 参加者アンケート集計結果

質問-1 ウェルカムまちづくり市民討議会 2010 参加依頼を最初にご覧になった時、どのように感じましたか？

| | | |
|---|-----------------------|------|
| 1 | おもしろそうだった | 21 名 |
| 2 | 不安になった | 2 名 |
| 3 | 興味がわかなかった | 1 名 |
| 4 | 内容がわかりづらかった | 8 名 |
| 5 | その他 | 2 名 |
| | 考える時間が少なすぎて、まとまらなかった。 | |

質問 2 今回のような無作為(ランダム)抽出の市民の皆様へ依頼文をお送りし、参加者を募る方法についてどのようにお考えですか？

| | | |
|---|----------------------------|------|
| 1 | 多くの市民が参加の機会を得られて、良いことだと思う | 31 名 |
| 2 | 関心のない市民にも案内が届くので効果的ではないと思う | 3 名 |
| 3 | その他 | 0 名 |

質問 3 小山市にお住まいの年数についてお伺いします

| | | |
|---|--------|------|
| 1 | 5 年未満 | 3 名 |
| 2 | 10 年未満 | 2 名 |
| 3 | 20 年未満 | 9 名 |
| 4 | 20 年以上 | 19 名 |
| 5 | その他 | 1 名 |

質問 4 - 1 一日間という開催についてどのように感じられましたか？

| | | |
|---|--------|------|
| 1 | 長い | 8 名 |
| 2 | ちょうどよい | 20 名 |
| 3 | 短い | 4 名 |

質問4 - 2 「長い」あるいは「短い」とお答えになった方にお尋ねします。
 ちょうどよい時間はどれくらいであると考えますか？

| | |
|--|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 2日間の開催で、1日あたりだいたい2時間位 ・ 3日間の開催で、1日あたりだいたい3時間位 ・ 1日間の開催で、1日あたりだいたい4時間位 ・ 半日 |
|--|---|

質問5 今回の市民討議会は土曜日の日中に開催しました。曜日と時間帯について、どのようにお感じになりましたか？

| | | |
|---|------------------|-----|
| 1 | 曜日について・・・週末がよい | 26名 |
| 2 | 曜日について・・・平日がよい | 3名 |
| 3 | 曜日について・・・どちらでもよい | 5名 |

| | | |
|---|-------------------|-----|
| 1 | 時間帯について・・・日中がよい | 30名 |
| 2 | 時間帯について・・・夜がよい | 1名 |
| 3 | 時間帯について・・・どちらでもよい | 3名 |

質問6 今回の市民討議会の報酬とその額についてどのようにお感じになりましたか？

| | | |
|---|---|-----|
| 1 | ちょうどよい額だと思う | 16名 |
| 2 | ちょうどよい額だと思わない ・適切な額は(4,000円・5,000円) | 5名 |
| 3 | 報酬は必要ない | 7名 |
| 2 | 今回とは違う方法での報酬がよい ・小山市の特産物の現物支給・図書券・交通費程度でよい | 2名 |

質問7 今回の市民討議会はテーマを3つ設定して討議して頂きました。
各回のテーマは討議を進める上で適切だったとお感じになりましたか？

| | | |
|---|----------------|-----|
| 1 | 1回目・・・適切だった | 28名 |
| 2 | 1回目・・・適切ではなかった | 6名 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が身近にいないので ・テーマが大きすぎて、話が結構飛んで、時間が足りなかった。 ・時間的に無理 ・テーマ範囲が広すぎ。もっと絞り込むべき | | |

| | | |
|--|----------------|-----|
| 1 | 2回目・・・適切だった | 28名 |
| 2 | 2回目・・・適切ではなかった | 6名 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・もう少し時間があると3問目に繋がる様な気がした ・歴史はあるがうまく伝わっていない。自然が平凡すぎる。生かしきれない ・小山の歴史のことをあまり知らなかったので、話すことがあまりできなかった。 ・課題に関して、討議時間が少なかった ・時間的に無理 | | |

| | | |
|---|----------------|-----|
| 1 | 3回目・・・適切だった | 28名 |
| 2 | 3回目・・・適切ではなかった | 6名 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・課題が難しい。 ・時間的に無理 | | |

質問 8 各回の情報提供の時間の長さはどうにお感じになりましたか？

| | | |
|---|--------------|-----|
| 1 | 1回目・・・長い | 24名 |
| 2 | 1回目・・・ちょうど良い | 7名 |
| 3 | 1回目・・・短い | 3名 |

| | | |
|---|--------------|-----|
| 1 | 2回目・・・長い | 3名 |
| 2 | 2回目・・・ちょうど良い | 31名 |
| 3 | 2回目・・・短い | 3名 |

| | | |
|---|--------------|-----|
| 1 | 3回目・・・長い | 15名 |
| 2 | 3回目・・・ちょうど良い | 17名 |
| 3 | 3回目・・・短い | 2名 |

質問 9 - 1 各回の討議の時間の長さはどうにお感じになりましたか？

| | | |
|---|--------|-----|
| 1 | 長い | 2名 |
| 2 | ちょうど良い | 8名 |
| 3 | 短い | 24名 |

質問 9 - 2 各討議グループについて1グループの人数はどうにお感じになりましたか？

| | | |
|---|--------|-----|
| 1 | 多い | 1名 |
| 2 | ちょうど良い | 33名 |
| 3 | 少ない | 0名 |

質問 10 討議していく中で、各テーマに関してご自身がこれまでもっていたお考えに何か変化がございましたか？

| | | |
|---|-----------------------|-----|
| 1 | 自分の考えが参加前に比べて大きく変わった。 | 9名 |
| 2 | どちらかというと変わった。 | 13名 |
| 3 | どちらかというとならなかった。 | 9名 |
| 4 | 自分の考えにまったく変化がなかった。 | 3名 |

質問 1 1 今回の討議を通して大テーマである「人と企業を呼び込むまち」にまつわる問題点や今後につながるアイデアが明らかになったと思いますか？

| | | |
|---|--------------|-----|
| 1 | 思う | 11名 |
| 2 | どちらかというと思う | 9名 |
| 3 | どちらかというと思わない | 2名 |
| 4 | 思わない | 2名 |

質問 1 2 これまでに「市民討議会」や「市民ワークショップ」といった市が主催する討論の集まりに参加したことがありますか？

| | | |
|---|----|-----|
| 1 | ある | 1名 |
| 2 | ない | 33名 |

質問 1 3 市民討議会に限らず小山市の市民参加の試みに今後参加したいと思えますか？

| | | |
|---|-------------|-----|
| 1 | 参加したい | 14名 |
| 2 | 都合がつけば参加したい | 19名 |
| 3 | 参加したくない | 1名 |

その他 小山市民討議会2010ウェルカムまちづくりについてご意見やご要望がございましたら以下にご記入ください。

| |
|--|
| <p>・始めは不安でしたが、皆さんの意見交換を聞くうちに不安がなくなり、いい機会になりました。</p> |
| <p>・初参加であり、自身の頭の活性化に大いに役立ちました。開催回数を多くし多くの方が参加できるようにしたい。</p> |
| <p>・最初さんかする気はなく、親に言われ嫌々来ました。しかし小山に住んでいる他の人達と交流し意見交換でき、良かったと思います。が私は真面目に考えることは苦手なので、今回で参加は最後にしたいと思います。でも有意義な時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。</p> |
| <p>・やったからには、何かしら実行してほしいです。</p> |
| <p>・年長の方々のご意見がいかに重要で、耳を傾けるべきものであるのか、今回の多様な年齢層の中で、話し合いをしてよく分かりました。</p> |
| <p>・箱物の場所に新たなるアイデアをだして参加できる様にする。弁当を内容的にもこじんまりにしてください。季節ごとに各テーマでやるとよいのでは。きちり参加可能な方に声かけ運動をしてみても、いかが？</p> |
| <p>・もっと多くの人達が、意見を出せる機会を設けていければいいと思う。さらに具体的な項目から取り上げて、実現を向けていければいい。うまく行かなければ、原因を追求してそれを生かしていく。</p> |
| <p>・小山の歴史をもっとPRをし、地元の人達も学ぶべきだと思った。</p> |
| <p>・テーマを分かりやすくした方が良くと思いました。</p> |
| <p>・初めての参加で不安でしたが、思った以上に活発な意見交換をすることができ、有意義な時間でした。今回の討議会で出された意見をもとにして小山がよりいっそう良いまちになることを希望します</p> |
| <p>・情報提供は、事前に資料をもらっておいた方が、当日までにイメージができるので良いかもしれない。市民討議会をきっかけに実現したことがあれば、教えてほしい。</p> |
| <p>・結果の分析をして市政にどのように活かすかを報告してほしい。</p> |
| <p>・討論の時間が短く、周りにたくさんの方が立っていたので、討論しづらかった（圧迫感）。市民を考えるなら、のびのびと深い内容が出るように、工夫すべきとおもった。お弁当、おいしくてよかった。</p> |
| <p>・回数を増すこと。討議会のPR。</p> |
| <p>・活発な討議ができ、元気が出ました。自分の住む小山市の将来について、大変楽しみになりました。</p> |

| | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・初めての参加で不安でしたが思った以上に活発な意見交換が出来有意義な時間でした。今回の討議会で出された意見を元に小山がより一層よい町になることを希望します。 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・このような討議会は今後も継続して開催して欲しいと思う |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・勉強になりました |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・一つの課題に話し合う時間をもう少し増やしまとめをもっといいものにすることも大事ではないのか |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・こうした機会を増加させるべき |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・場所は交通の便の良いところが良い。せめて、バスの時間にあった時間が良い。場所の案内地図がわかりにくい。(自分で調べ直しが必要だった。) |

2.開催前アンケート集計結果

無作為抽出により参加依頼書を送付した 2,000 名のうち、討議会への参加を希望されなかった 500 名の方から、アンケートの回答をいただきました。

質問 1-1 市民討議会に参加を希望されなかった理由は？(複数回答可)

| | | |
|---|---|--|
| 1 | 討議会に参加すること自体に興味をひかれない。 | 122 名 |
| 2 | 今回の討議テーマに興味をひかれない。 | 46 名 |
| 3 | 討議会に参加したいが条件が整わない。 | 212 名 |
| 4 | <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事の都合上。 ・討議会の開催時間が長すぎる。 ・討議会自体どのようなものか、分からない。 ・健康上の都合。 | <p>127 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の小山市の取り組みをあまり把握していない。 ・私が参加したところで何も変わらないと思いました。 |

質問 1-2 質問 1-1 で「討議会に参加したいが条件が整わない」とお答えになった方におたずねします。都合に沿わなかった条件は？(複数回答可)

| | | |
|---|---|--|
| 1 | 日 程 | 162 名 |
| 2 | 開催場所 | 29 名 |
| 3 | <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事を休めない。 ・小さな子供が居て託児などが無いと無理 ・1日6時間討議は長い。 ・交通的に不便。 | <p>41 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門知識が無い。資料が欲しい。 ・家事都合により。 ・体調不良のため。 |

質問 1-3 質問 1-2 で「日程」とお答えになった方におたずねします。都合に沿わなかった条件は？(複数回答可)

| | | |
|---|--|--|
| 1 | 日時 | 101 名 |
| 2 | 曜日(土・日) | 81 名 |
| 3 | 開催期間(連続 2 日間) | 14 名 |
| 4 | <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土曜日仕事の為。 ・1ヵ月後か2ヵ月後以内の方が予定が組みやすい。 ・学校のPTA奉仕作業と重なってしまった為。 ・すでに予定が入っている為。 | <p>15 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間が長すぎる ・小さい子供がいるので、参加が難しい。 ・両親が病気の為。 |

質問 2-1 この市民討議会は、参加していただく市民のみなさんを見ず(ランダム)で選んでいます。この選び方についてどのように思われますか。

| | | |
|---|----------|-------|
| 1 | 良いと思う。 | 285 名 |
| 2 | 良いと思わない。 | 68 名 |
| 3 | どちらでもない。 | 135 名 |

質問 2-2 質問 2-1 で「良いと思う」とお答えになった方におたずねします。
その理由は？(複数回答可)

| | | |
|---|--|-------|
| 1 | へだたりのない市民の意見をひろく知ることができる。 | 190 名 |
| 2 | 市民がまちづくりに参加するきっかけになる。 | 190 名 |
| 3 | その他 | 6 名 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・色々な意見が期待出来る。 ・学識経験者だと答えが決まってしまう ・各自の身近な問題だから。 | |

質問 2-3 質問 2-1 で「良いと思わない」とお答えになった方におたずねします。
その理由は？(複数回答可)

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 無作為で市民を集め、討議することに意味があるとは思わない。 | 20 名 |
| 2 | 無作為といっても実際に参加できる人は限られる。 | 52 名 |
| 3 | その他 | 12 名 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・無作為だと年齢や性別など(その他の条件)バランスが悪くなり意見に偏りが出ることもあると思う ・今回の方法だと意見がある人でも、討議に参加できない可能性があるため、広報でテーマを掲げ、意見書を募り討議をした方がいい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・出席したい人を集めた方が早い ・関心のある市民は抽選される以前に自分から行動をおこなっていると思うから |

質問 3-1 今回の市民討議会のテーマ設定についてどのようにお感じになりましたか。

| | | |
|---|----------|-------|
| 1 | 良いと思う。 | 280 名 |
| 2 | 良いと思わない。 | 15 名 |
| 3 | わからない。 | 160 名 |

**質問 3-2 「良いと思わない」とお答えになった方におたずねします。
その理由は？(複数回答可)**

| | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・悪くはないが、もっと具体性があっても良いのでは。 ・もっと福祉について取り上げて欲しい ・始めは市側からの議題提示で良いが、次回からは、参加者で決めてはどうか。 ・今回の大きな3つのテーマをさらに細かくして討議したらよいのでは。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今回のテーマ3つともテーマが大きすぎる。もう少し小さく絞って具体的に示すか1回限りの討議ではなく3回くらい継続して討議を絞り込んでいくように逆に最初からテーマを設定しないで討議していくかどちらかのほうがよいのでは。 |
|--|--|

質問 4-1 無作為抽出による市民討議会の試み。今後も続けるべきだと思いますか。

| | | |
|---|----------------|------|
| 1 | 続けるべきだと思う。 | 297名 |
| 2 | やり方を見直して続けるべき。 | 82名 |
| 3 | 続けるべきだと思わない。 | 66名 |

質問 4-2 質問 4-1 で「やり方を見直して続けるべき」とお答えになった方におたずねします。どの点について見直しが必要だとお感じになりますか (複数回答可)。具体的なご提案をお持ちであればお書き添えください。

| | | |
|---|--|--|
| 1 | 日程 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・平日にしていきたい。 ・働いている人には、長い時間は自由にならない。 ・土曜か日曜でいいと思う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・9月は会社にとって、仮決算の月で、農家にとっては忙しい時期。 ・時間が長すぎる。 |
| 2 | テーマ | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・環境についてはもっととりあげるべき。 ・要点が絞り込めないのでは。具体的なテーマに絞り込んでみる必要はないのか。 ・市民からの要望を取り入れた方がいいと思う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・内容の良いテーマであると思うが、1日3つのテーマは多いのではないか。 ・テーマが漠然としていて何を討議したいのか分からない。 |
| 3 | 謝礼 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・謝礼が無くても良いのではないか。 ・図書カード(1000円分) ・税金の無駄使い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民討議会なのに、謝礼を出すのはおかしい。 ・昼食のみで謝礼は必要なし。 |
| 4 | 開催場所 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・場所はわかりやすい所がいい。今回ののははっきり言ってわからない。 ・小山市役所にしてほしい。 ・小山駅周辺とか小山市中心部 | <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットでもよいのでは？ ・会場費がかからないところ |

| | | |
|---|--|--|
| 5 | 運営方法 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> もう少し、詳細な説明が欲しい。 市の上層部の方の出席を出来るだけ多く。 討議に参加できない方にもアンケートで意見を求めたら如何ですか？ | <ul style="list-style-type: none"> インターネットなどを利用して幅広く意見をすいあげるべき。 広報でまず広く行なわれることを知らせ、興味を持たせてから無作為でも良いが開催すべき（又、とりあえず参加した人の希望を募るべき。） |
| 6 | その他 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 出席したいと思う人を募集しても良いと思います 託児所をつけてもらおうと子育て中の人もっと参加しやすくなります。 高齢で開催場所に行くのが大変 | <ul style="list-style-type: none"> 無作為ではなく各方面（業種など）からいろいろな立場の人を参加させた方がよいと思う。 |

その他、この市民討議会の試みについて自由にご意見をお寄せください。

| | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> 参加依頼書に目を通し、今まで意識していなかったよいまちづくりを心掛ける、きっかけになった。 市民討議会等が苦手。私共の様な人の為に、代弁者として市政に関与している議員を選挙にて選出し、信じて任せているのではないか。 | <ul style="list-style-type: none"> テーマ選択が重要であると思う。複数のテーマが事前に連絡されれば得意分野で参加できる人もでてくるかもしれない 3回目ということですが参加依頼書を発送する際以前のテーマとその結果行政にどのように反映されたかお知らせしていただけたらもっと関心と興味が深くなる気がします。 |
|--|---|

質問 5 市民討議会の傍聴について、ご意見をお聞かせください。

| | | |
|---|--|---|
| 1 | 非公開で行ったほうが良い。 | 45名 |
| 2 | 関係者のみ傍聴しても良い。 | 64名 |
| 3 | 公開で行ったほうが良い。 | 308名 |
| 4 | その他 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> 傍聴者が居ると固くなり、本音が出にくいのでは。但し、この様な討議が行われている事は、市民の皆様には知らせたい。 開催場所のスペースがあれば公開でも良いと思う。 | <ul style="list-style-type: none"> 公開はしなくてよいが結果は公開すべき（幅広く）でないと本討議会の認知度が上がらない。 テレビ小山で全放送すべき。 |

最後に、支障のない範囲であなた自身についてお答え下さい。

質問 6-1 性別

| | | |
|---|----|-------|
| 1 | 男性 | 201 名 |
| 2 | 女性 | 276 名 |

質問 6-2 年齢

| | | |
|---|---------|-------|
| 1 | 20～29 歳 | 41 名 |
| 2 | 30～39 歳 | 100 名 |
| 3 | 40～49 歳 | 81 名 |
| 4 | 50～59 歳 | 100 名 |
| 5 | 60～69 歳 | 117 名 |
| 6 | 70～79 歳 | 38 名 |
| 7 | 80～89 歳 | 0 名 |
| 8 | 90 歳以上 | 0 名 |

おわりに

このたび、小山市民討議会2010『ウエルカムまちづくり』にご参加いただきまして、まことにありがとうございました。

小山市と(社)小山青年会議所が今年新たにパートナーシップ協定を結び第3回を無事に終えることができました。例年と同様に無作為抽出による市民参加型の討議会ではありませんが今年テーマを公募するなど、わかりやすい討議を進めさせていただきました。また、3回目となり討議会の結果を市長に提言させていただいていますが、小山市と一緒にまちづくりに反映していますし、必ずより良いまちに近づいていると確信しています。

この市民討議会は3年前から青年会議所が進めていますが、各地では参加者が減少により、開催できない地区もあります。そんな中、小山市民の皆様は参加承諾書の返信も数多く頂き本当にありがとうございました。一時のブームで終わらせるのではなく、小山青年会議所はこれからも推進していきます。

まちづくりは行政だけの考えだけで行うものでもなく、わたしたち市民だけでできるものではありません。市民と行政が一つになり考え、実行していくことが理想のまちづくりではないでしょうか。

市民討議会が小山市のまちづくりの手法として定着し、明るい豊かなまちへの更なる発展に繋がることを、ご祈念しご挨拶とさせていただきます。

最後に、趣旨にご理解いただき快く共催いただきました大久保市長様、実行委員会として共にご協力ご助言いただきました小山市職員の皆様、広報活動にて多大なるご協力をいただきました報道関係者の皆様に心から感謝を申し上げます。

本当にありがとうございました。

2010年度 社団法人小山青年会議所
第41代理事長 栗林 亨



ウェルカムまちづくり

小山市民討議会 2010

■ 実行委員会メンバー

実行委員長 大河原 貴

実行副委員長 小曾根友治

社団法人小山青年会議所

栗林 亨

田辺 弘樹

渡辺 正則

田村 達男

鈴木 健治

土屋 裕康

池田 正実

石川 浩丈

山中 茂治

小山市

森谷 昌敏

茂呂 弘之

岡田 憲司

大久保 誠

日高 栄助

北山 友美

前田 充

小山市民（一般）

飯野 一郎

山崎 真裕

事務局

事務局長

事務局

須藤 武

諏訪 直樹

関矢 統子

矢口 健治

片柳 永善

田中 絵美

